

「両面睨み節」

〜相四つで水入り〜

作・演出 松村武

鹿森伊之助 (行司)

緒方美和子 (看護師)

銀田達夫 (会社員)

恩部 (オンベ)

禄 (ロク)

神室 (カムロ幼年期)

神室 (成人期)

當麻蹴速 (タイマノケハヤ)

盤情 (バンジョー) ・阿方のババ

東湖（トウコ）

坂奥（サカオク）

鹿森博士

黄金姫（コガネヒメ）

野見宿禰（ノミノスクネ）

埴輪

伊根宿禰（イネノスクネ）・脇見・同級生2

狒々（ヒヒ）

悪源太義平・沢密

十得・布津間

同級生1・恩部天志

和仁舞人

母・市旗

恩部と禄が、観客に座布団を配っている。

観客に、座布団を投げる合図を周知させ、荷物に手をかけると…

赤ん坊の泣く声がる

母が胸に抱いてあやししながら住居から出てくる

母

神室

恩部と禄がやってきて道に棒などをならべる

恩部

すみませんね、恩部です

母

ああ

恩部

ちよこつと前の辺りをすいませんね。ここらをね、ざっと、あれしますのでね

禄

すぐ終わりますんで

母

ご苦労様です

恩部

おお、おお、元気に泣きなされるお子様だ。元気だねえ。怖いかねえ？

禄

(神室に) おい

恩部

うむ、これは感じておられるんじゃないですか、お母さん？

母

今朝からなかなか泣き止まなくて

恩部　でかい嵐が近づいておりますのでな。もうお察しのことでしょうか

禄　恩部さん、だいたい終わりました

恩部　はいよ、禄さん

母　大丈夫でしょうか？

恩部　大丈夫

母　うちは父親が死んで男手がないものですから

恩部　可哀想に、子供が二人もいてねえ。そりゃあ不安だね。でも、しっかりあれしときましたから。もうすぐ、お現れになります

母　もうすぐ・・・

恩部　禄さん、嵐の兆しは感じるかい？

禄　まだ全然だが、急に来るよ、最近のヤツは

恩部　手遅れになる前に急がないとね

禄　家に入って窓を閉めておいてください。合図があるまで絶対外を見たり、出歩いたりしてはなりません

恩部　お子さんも。人によっては目がつぶれますでな

母　は、はい！

恩部　心配なさるな。これで必ず竜遇様がいらして、嵐なんぞ一口に飲み込んでくださいますでな

母　さあ、家に入ろう、神室

禄　恩部さん、そろそろ

恩部　わかってるよ。そうせくな。では、お呼出し申し上げます。この言葉が聞こえる距離にいる方は必

ず耳を塞いで。人によっては耳もつぶれますでなあ

母 (神室に何か言う)

禄 うっせえぞおい！

竜の吠える音が聞こえる (禄が口でやっている)

母 ああ、何と恐ろしい！

恩部 耳がつぶれますぞ、お母さん！・・・聞いとるか？耳を塞がんとつぶれますぞ！わかつてるのか？必ず目も耳も塞いで。お母さん！わかつとりますか？返事は？おい！・・・それでよい！

禄 (竜の吠える音)

恩部 竜遇様、竜遇様！「かいらみろすまりむす、にぎらみにまりす、むらたちりうろすむ、なわぎそぎむらねもしをりの、さんなきみそもろとえのも、ひもろみにさをらみりむす、ながらしえもろちしむろ」の

上空より巨大な風音とともに影が横切り、羽毛が降るように落ちてくる

恩部 今だ、竜遇様に生きた餌を！

禄が檻を解き放つと中より巨大な狒狒が転がり出る

狒狒

あ？違つよ！俺、竜遇様じゃないし、竜遇様の餌でもない。全然違つ。そもそも時代が大幅にずれる。こつからだいぶ飛んでね。千年くらい先の後世を生きてる。後世たって今の俺にはリアルタイムだ。お、リアルタイム、そんな言葉どこから出てきた？そんな横文字がまだ登場するはずもないだろう。何せ、昨今の巷は都にのさばる、荒々しきもののふどもの時代。一一五九年、平治の乱にて平清盛に完膚なきまでに返り討ちにあった源氏の棟梁、源義朝一族は、東国目指して落ちのびるうち、親兄弟が方々に離散。今、俺の目の前で、この狒狒様に鼻息荒く挑みかかって来る若造こそ、何を隠そう、義朝が自慢の御曹司、人呼んで悪源太義平

義平

さて追い詰めたぞ、飛驒のものけ、岩屋の狒狒よ！

狒狒

うるさい！下衆の人間の言葉など百万聞いても、この脳天に一つもかすらぬ！

十得

化け猿に説教は無用！義平様ここはひと思いに！

狒狒

黙れ、お前達の相手をしている場合じゃない、俺は今、少々混乱しているんだ。ここはどこだ？

恩部

竜遇様の腹の中じゃ

狒狒

なわけあるか！俺は竜遇様でもないし、竜遇様の餌でもない！

母

(子供が飛び出し) 神室！

神室(子)

ねえ、オババ様、竜遇様は死なないの？

恩部

まずその、オババ様という物言いをあらためないとね

禄

お嬢ちゃん、まだおうちに入つてな

神室(子)

竜遇様の声を聞いたよ

恩部

何と！この子は！

母

神室！やめなさい

禄 いや、お母さん。ねえ詳しく聞かせてくれないか

恩部 竜遇様は何と言ったね

神室（子） わからない

恩部 ちゃんと聞いとけよ、そこは！

禄 恩部さん、まだ子供だ！

神室（子） 声は聞いたの。だけど、何と言ってるのかわからなかった

恩部 本当に聞いたのかい？

神室（子） でも何と言ってるのかわからなかった

恩部 どういうことだよ！

狒狒 きっと言語が違うんだ。俺だってアメリカ人が何喋ってるのか、今でもさっぱりわからない。ん？ア

アメリカ？アメリカなんて言葉が今の世にあるのか？何せ、昨今の巷は都にのさばる、荒々しきもの
ふどもの時代……

うるさい！黙れ！じゃあお嬢ちゃん、さっきは何で死なないのかと聞いたんだ？

恩部 それはね、竜遇様の声が、およそこの世に存在するものとは思えぬ、まるで、永遠の響きだったから
神室（子） です

狒狒 この不思議な発言をした神室って少女は、成人した後、この飛驒のクニを統べるミコとなる。だが、
それと対をなすが如くに、その不思議な発言を聞いた恩部のババとその一党は、この地にて落ちぶれ、
忘れられてゆく……と、何でこんなことを飛驒の山中の狒々に分かりうるのだ？

十得 一体何をためらわれるか義平様、幾人もの村娘を餌食にしたという、恐ろしきもののでござる！は
よう、一刀のもとに退治を！

義平

いや待て、十得。何かがおかしい

狒狒

何かがおかしい。何だかおかしい。やっぱり俺は竜遇の餌なのか？それでもって竜遇到に飲み込まれて、そのまま奴と一緒に時空を飛び越えて移動させられてるわけか？って、何だそのアイデアは？アイデアア？何だその言葉は？そもそも竜遇とは何だ？って気づいてみたら、何だい、ここは？どひょう！これ、とことん驚いた時に狒狒が鳴く声ね。どひょう！どひょう！

座布団が飛び交う熱狂

(*観客に座布団を投げてもらう)

太鼓の音とともにそこは現代の国技館

相撲取りが居並び土俵入りの景

狒狒の近くに来る三人の親方めいた男達 甲(鹿森伊之助) 乙(野見) 丙(當麻)

甲

それじゃあ、籤引きといきましょうか

狒狒

え？

乙

とっととやっちまおっぜ。待ったなしだ

狒狒

何の籤引き？

丙

くれぐれも公平に頼むぞ。インチキは許さん

甲

もちろんです

狒狒

この会話、僕も含まれます？

甲

もちろん

狒狒

じゃああれですね。僕は事情がわかってないですね

丙 籤引きに理解は不要！

乙 運あるのみだ

狒狒 はい、まあ籤引きの概念はわかるのですが、一体これが・・・

甲 ここに四枚のカードがあります。スペードのキング、紅葉に鹿、ワイルド、愚者

狒狒 様々だな。愚者って何だ？

甲 タロットです。混ぜます。さあ、一枚つつ引いてください

丙 俺は鹿だ

客 花札だ！

乙 俺はワイルドカードだ

客 ウノだ！

甲 じゃあお二人が土俵の上で戦います。着替えてください

丙 よしっ！やったるぞ！（羽織を脱ぐと衣装、塩をまく）

客 タイマンケハヤ！

乙 こっちこそ、なぎ倒す！（羽織を脱ぐと衣装、塩をまく）

客 ノミノスクネ！

甲 はい。そして愚者を引いた僕は、なるほど行司ですね

狒狒 元々行司の格好してるじゃないか！ってなぜわかる俺？

客 シシモリイノスケ！

狒狒 何だこの籤引きは？まるつきりこれじゃ、やおちよ・・・やおちよ・・・やおよろず・・・ん？

甲 あなたのカードは？早く見せて、待ったなしですよ

狒狒 見せるまでもなく、その、何だ？スペードのキング？ってやつだよ！

甲 トランプですね

狒狒 何だそりや、知らないよ。何せ俺は都にのさばる、荒々しきもののふどもの……

甲 じゃあ、あなたトランプね

狒狒 え？

甲 トランプお願いします

狒狒 だから何だそれ？知らないよ、そんなの

甲 あんた、トランプにびったりだよ、その赤ら顔

狒狒 だからトランプって何なんだよ

甲 世界のキングだよ

狒狒に対して熱狂する客達

甲（鹿森）による相撲甚句もどきにのせてスローで展開する国技館の景

アナウンサー

一般の方です。観客の青年と硬い握手を結ぶトランプ氏。それを取り囲む観客の皆さん。大歓声で大統領を迎えております。いらっしやい。ようこそニッポン、これが日本の国技、大相撲です。トランプ氏、観客たち一人一人に笑顔で応えます。なんとも美しい、美しい光景だ。まさに歴史的な瞬間であります。その観客の中から、壇上にかかるオトモダチのご婦人達。あくまで一般の方々です。関係者ではありません。普通は押さえられない今日のこのマス席を、裏から手を回し、あらゆるツテを利用して手に入れたごく普通の方々です。

狒狒

西暦二〇一九年令和元年の夏場所、国技と呼ばれる両国の土俵上で、俺は、身も心も昂る愚者どもにあれよあれよと祀り上げられて、世界に君臨する狂王の夢を見た・・・だけど俺には、あのアメリカ人が、いや俺が何を喋ってるのか、喋らされてるのか、さっぱりわからなかった

♪

鹿森

はああああああくああああああく

力士

睨んでえ 睨んでえ

鹿森

はあああああああああああく

力士

見あくってえ〜(待ったなし)

鹿森

晴れた空あく 地のツラ踏んでえ〜

力士

ならしてえ〜(どすこいどすこい)

鹿森

駆けのぼるう〜 タツの背に乗ってえ〜

力士

睨み節い〜

鹿森

八卦よし、八卦よおし

狒狒

やがて天高らかに歌い上げた、その愚者の歌声響き渡る、綱で囲った円形の祭壇の中に、少しづつ水が満ちてきたような気がした。そうか、あそこにはかつて透明の水が満ち満ちて、涼やかな風が通り過ぎる穏やかな泉があったのか・・・するとまるで何かにたまりかねたかのように、いくら透明で涼やかであっても、このままじつとしていると、やがてはその水に飲み込まれ、泉の底で人は溺れてしまふのだというばかりに決然と、やおら一人のサラリーマン風の男が、周りの制止を振り切って、その祭壇に上ってきた。無論俺にはサラリーマンという言葉の意味するところなど一塵も分かるはずが

ない。その男、銀田達夫は実況席からマイクを奪い取り、俺に向かって何かを叫ぼうとした！

銀田
おっ……

狒狒
と、冒頭で噛んでしまったつきり、銀田はしばし押し黙り、そのまま目を剥いて、その場に卒倒した。

場内は騒然として、俺の周りのSP達に緊張が走る

緒方
すいません。すいません、通してください

狒狒
と、思わずその結界の俵を越えて、祭壇に踏み入れ、倒れた男に駆け寄った緒方美和子は、銀田とは

全く面識のない善意の看護師であった

緒方
身体を動かさないで。危険な状態です

客1
女だ！女が土俵に上ったぞ！

客2
しかもスカートじゃないか！

客3
神への冒瀆だ！国技への屈辱だ！

客の非難の聲が高まる中、銀田の応急処置を進める緒方

緒方
(やおら立ち上がり) ……お願いだからお静かに……お黙りなさい！(ブーイング)

鹿森
お嬢さん、とりあえず、とりあえず一旦土俵からおりてくださいませんか？

緒方
その前に、裁いてくださいよ。行司さん。それがあなたの役目でしょ。何が正しくて、何が間違ってるんですか？

ブーイングと共に座布団が飛び交う

狒狒

大熱狂が周囲の音のすべてを消して、まるで静寂の岩窟に一人で眠っているような国技館で俺は、S P 達に帰りを急かされながらも、言うことを聞かず、そんな銀田と緒方をスマホで連写していた。何だ？この未開国家の伝統文化とやらは。ジーザス全くわけがわからないネ、などと画面上に英語で呟きながら、狂王はふと我に返った。俺は狒狒だ。狒狒にすぎぬ。都にのさばる、荒々しきものふどもの時代に、かの悪源太義平を震え上がらせた、怖ろしき飛驒のものけなのだ。人の愚かさなど微塵も存ぜぬ。何ならここにいてすべての愚者どもを理由もなく立て続けに餌食にしてやろうか！

竜の哭く声を祿が叫ぶ

恩部

竜遇様、竜遇様ーかいらみろすまりむす、にぎりみにまりす、むらたぢりうろすむ、なわぎそぎむらねもしをりの、さんなぎみそもろとえのも、ひもろみにさをらみりむす、ながらしえもろちしむろの…

上空より巨大な風音とともに影が横切り、羽毛が降るように落ちてくる

恩部

今じゃ、竜遇様に生きた餌を！

暗転

同級生2　ねえ、昨日のTV見た？NHK特集？

同級生1　恐竜の最新のアレ研究！

同級生2　凄かったよなあ

同級生1　アレびっくり

同級生2　爬虫類じゃないんだってよ、埴輪、見た？

同級生1　全然知らなかった。アレ、トカゲじゃないんだよ。鳥なのよ、埴輪

同級生2　虹色の羽毛がついてたんだってよ

同級生1　オウムとかインコがその生き残りのアレだって

同級生2　話が違くないかって話、昔図鑑で見たのなんかと全然違うんだから

同級生1　あれ？アレって何で滅びたんだけ、埴輪？

同級生2　気候でしょ。寒くなったの

同級生1　でもアレ、羽毛あったわけでしょ

埴輪　隕石だよ。隕石が落ちたんだよ

同級生2　埴輪も見たの？

埴輪　TVなんて見ないよ。総じてくだらないからね

同級生1　でもあれでしょ？それ以前に埴輪んちにはTVないわけでしょ？

埴輪　僕のうちには僕以外のものはない

同級生2　はいはい、わかった、そういう、埴輪の中での精神的なアレではねって

同級生1　あれ？これ、前も全く同じ会話したよね

壇輪　　ここでね。同じ角度。噴水の前

同級生1　あれだ、一学期の終業式の日だ

壇輪　　去年のね

同級生2　よく覚えてるね、細かいところまで

壇輪　　僕は全部覚えてるよ。そして忘れない。僕は永遠の存在なんだ。お父さんがそういう風に作った

同級生1　あれ？始まったよ、アレ

壇輪　　僕が作られる前はね、王が死ぬと、周りのみんなは一緒に死ななくてはいけなかったんだ。そういう

ルールさ。そうやって時代が新陳代謝される。そういう知恵でもあった。世界はいつも一から作られていった。一旦全部を忘れてから、もう一度一からやり直す。それが活力の源だった。人は新しい原

野をゼロから開拓する時にこそ、最も真つ当な力を発揮するんだ

野見　　だが、それじゃあ、あまりに辛いんだよ。ひとたび王が死ぬば、これからっていう若者だって一緒に

死ななきゃいけない。それはどう考えても理不尽だ。それで俺はこう説いた。生きてる人間を埋めると朽ちる肉体と共に、王の記憶は失われてしまう。その代わりに生きてる人間そっくりな人形に、すべての記憶を彫りこんで埋めれば、こいつは何千年も朽ちずに、あなた様の記憶を保存し続けるでしょうってな。和仁の猫熊は最初はそんなことできんのかって疑ってたが・・・

同級生1　和仁

同級生2　猫

同級生1　熊？

壇輪　　当時の王の名前な

野見　　俺が何度も実験してみせたり、ついに納得したよ

埴輪　もちろん、父さんお得意のはったりだ

野見　結局猫熊が実際に死んだ時には、俺は、何千体もの家臣達の人形を作らなきゃいけなかった。だがそれらをすべて一人一人の顔に似せるなんて不可能な話だ。だから俺は全部の人形を同じ顔にしてやった。誰も文句は言わなかったさ。何せその人形のおかげでみんなが殉死を免れたんだ。文句があるとしたら、あの狂王だけが、死人に口なし

埴輪　それがこの僕の顔なのだ

野見　狂王に殺された、おまえの顔にしてやった

埴輪　だから僕はそこまで起こったすべてのことを覚えている。その後、墳墓の底から土塊を隔てて聞こえた範囲においては、それからのことも覚えている。発見されて出土してからのことは、これをすべて覚えている。勢い余って、こうしてまるで生きているかのように振舞うようになってからも、すべてのことを覚えている

同級生1　埴輪、スイッチ入ると相変わらずやべえなあ

埴輪　おまえらが全く気付いてないようなことも含めてな

同級生1　大丈夫？

同級生2　アレなんだよ、アレ

埴輪　知ってるか？この場所は本当は竜遇が時間の底を行き来する聖なる泉なんだぞ

噴水から突き抜ける竜のイメージ

砕けた破片が泉と、その畔にならぶ巨石群の景に

その隙間から巫女である神室（成人）が出てくる

口パクの託宣に熱狂する民

「神室様のご託宣が出たぞー！」 「神室様ー！」などと熱狂している。

一人になってクラッと倒れる神室

弟の當麻が入って来る

當麻

大丈夫か、姉上……（距離を取っていく神室に）姉上

神室

もう私はダメです。當麻、あなたが王になればいい

當麻

男の王などありえません

神室

もう耐えられない。私にはもう、いかなる声も聞こえないのです。竜遇の気配すら感じられない。これ以上民に嘘をつき続けることは辛過ぎるのよ

當麻

疲れて弱気になられているだけだ。そういうものだ、巫女というものは。ぶっちゃけて言えば、バカ正直に声を聞くのが役目ではない。もはや生きてる者たちの中で竜遇をその目で見たものなどどこにもいないんだ。それは架空の希望というものです

神室

さような言葉、人に聞かれては

當麻

人々が聞きたい言葉を言ってやればよいのです。あるいは人々が聞くべき言葉を。それが竜遇という概念だ。みんなもうそんなことはわかってる。わかった上で、姉上を認め、頼っているのです。巫女神室こそが、竜遇の声を聞き、このクニをしかるべき道筋に導いてくれることを

神室

そうであれば、おまえにも務まるでしょう當麻。おまえには古今無双のその腕力もある

當麻

男では務まりませぬ。欲望に捉われぬ無垢な建前が必要なのです。あくまでも、たとえ実在せぬとしても竜遇が世を導く形が示されねば国はおさまらない。男の言葉では信用されぬ。その声を直に聞く清廉の巫女がいて、初めて民が個々の違いを越えてまとまることができる

神室

當麻

そんなことはわかっていきます。だけど私にはもう辛い。人々を騙していることが姉上のそういうところが、他の誰よりも王にふさわしい所以…危ない！

矢が何本かうちかけられる

當麻

おのれ、曲者か！

盤情が入ってくるのにとっさに組み合う當麻

當麻は盤情を床にたたきつける

盤情

やめろ、當麻、俺だ。血を下げろ、血を下げろ

當麻

盤情さんか、あんた、どういうつもりだ？

盤情

俺じゃない。あの山の頂から射掛けてきてる

當麻

あんな遠くから矢が届くはずがないだろう

盤情

それが届く。奴らそういう弓矢を持つてるんだ。鏃を見ろ

當麻

何だ？この見たこともない鋭い石は？

盤情

横谷の狩人どもが放った異国の兵器だ

當麻

横谷？何でやつらが…

盤情

滝壺より現れたという怪しい女が、見慣れぬ武具をもたらし、男衆どもの不平不満を焚きつけ、神室様への反逆を煽ってるという

神室 何です、その話は？

當麻 そういう得体の知れぬ者が横谷に現れたという噂は聞いてます

神室 私にとって代わろうとする者であろうか

盤情 そこまでは・・・

神室 もはや巫女の体をなさない情けなきこの身に代わるべく天より遣わされた・・・

盤情 いやそれは・・・

當麻 姉上、血を下げよ。クニの在り方に不満を持つ輩はいつだっている

神室 だが當麻、その女にもし、竜遇の声が聞こえるのだとしたら、私はどうすべきか？

盤情 そんなわけは・・・

神室 盤情さん

盤情 は

神室 私、年をとったわ

盤情 何をそんな・・・

神室 何もかもが衰えた

盤情 そういう意味では、私の髪の毛も、全部抜け落ちました

神室 あんなに長い毛を風にたなびかせていらしたのにね

盤情 だが実にさっぱりいたしましたぞ。おまけにそれなりに知恵はつきました。年月とはそういうもの、

盤情 であれば髪の毛の一本や二本が何ほどのことか

當麻 一本や二本じゃあるまいが

神室 じゃあ、どうすればいいのか教えておくれ、我が知恵の泉よ

盤情

必ず私が事態を・・・必ずや！

神室

盤情さん、もうはるか大昔のことだけれど、かつてのあの時、あなたが打ち明けてくれた秘めた思いを私が受け入れていたとしたら、今頃はどうなっていたんでしょうね、私達

當麻

そんなことがあったのか姉上？

盤情

・・・クニが滅んでおりました。神室様は選ばれた王なのです。あなたがいなければ、何もかも竜遇に見捨てられ、今頃ここには人も家も、私もあなたも、何ひとつ残ってはいなかったでしょう

横谷峡の滝

滝壺で舞い踊る黄金姫

周りには弓矢を持った狩人の男達が居並び、矢を天に向かって次々と放つ

野見と埴輪が覗いている

黄金姫

いつからのことだかわからない、幼い頃よりずっと、私の部屋には大陸伝来の美しい鳥の置物がありましてね、これが元旦になると必ず、鋭い声で鳴くんです。キーツ。それを聞くと私はね、ああ、また年が変わった、これで何かが一巡したんだわって、毎年毎年感激して一緒にキーツってなったものです

男達

キーツ！

野見

こいつは黄金姫といって、その正体は和仁の王女、猫熊王の娘だ

黄金姫

ところがある時、その鳥の置物が羽ばたいて空の向こうに飛んでいった。本当に飛んでいったんです。私びっくりして、寂しくて、思い余ってその行方を追って旅に出ました

野見
そいつがどういいうわけか、この飛驒の国の山奥に突然現れる

黄金姫
ある時、私がこの滝壺で髪を洗っていると、私の頭上でキーって鳴く声があった。私、思わず濡れた髪

を振り乱して見上げると、ああ、とうとう見つけた！大陸伝来のあの置物の鳥が美しい放物線を描いて・・・そのまま足元の滝壺に、飛沫をあげて飛びこんだ！

坂奥
その日は元旦だったのかな

黄金姫
でも外は汗ばむほどの陽気だったわ。裸同然でも全然寒くなかった

東湖
裸同然？

坂奥
同然だよバカ、裸じゃねえんだよ

東湖
だからそれ、元旦じゃなかったってことだろ！

坂奥
元旦か元旦じゃなかったか、どっちかだろ！

東湖
どっちだよ！

野見
どっちでもいい話だ

東湖・坂奥
キーっ！

黄金姫
それから私も思わずキーってなってね、鳥を追って飛び込んだのよ、私も、この滝壺！

坂奥
じゃあ残りの服は全部脱いだのか？

東湖
そんな暇はねえだろ。同然のままだよ、だから、なけなしの服がび、びしょ濡れでへ、へばりついた

つしよ！

埴輪
こいつらの台詞いらないな

黄金姫
・・・そしたら滝壺の底でね、私、竜遇の化石を見たのよ。螺旋に編まれた無数の骨がとぐるを巻いて鎮座して、滝壺の水を透かした光を反射して鈍く黄金色に輝いている。こんな話を聞いたことがあ

る。竜遇の骨の破片は硬く鋭く、この世のすべてのモノを砕き、この世のいかなるモノにも砕かれな
い……これだよ（黄金色に輝く化石の破片を出す）

竜遇の化石か！

かててええ！

つまり竜遇は遥か大昔に滅びた生き物だ。だから今、竜遇の声を聞いたとかいうやつがいるのだとし
たら、それは全部嘘だ。信用するな。その嘘こそクニを滅ぼす者の妄言

もしや神室の巫女様は……

俺達を騙していたのか！

その黄金姫こそ、和仁の王の国盗り調略の先触れ。狙った土地に忍び込ませて、狂い舞いの色気と流
言飛語で油断させた男衆に反逆の血を滾らせ、分断の種を蒔く。やがて、すっかり骨抜きにされたそ
のクニに、満を持して軍団を侵攻させるってやり方が王の十八番だ

で、時を告げる鳥は、この話に出てくる必要があるの？

ん？そうだな……

何で鳥が出てくるんだ？

うーん。つまりこういうことじゃないか埴輪。そいつがまさに滝壺で時を告げたんだ。誰も気が付か
なかっただけさ。その時すでに、その後の飛驒の運命を、狂王猫熊の支配の到来を告げたんだ

つまり筋は通ってた。宣戦布告はなされてたわけだ

それはどうだろう、と議論の余地も、その面影に刻み残そう

すべてのことは、なるべくしてなったのだろうか？

坂奥

東湖

黄金姫

坂奥

東湖

野見

埴輪

野見

埴輪

野見

埴輪

野見

埴輪

滝壺から飛び出た小鳥が山を越え、湖畔の岩屋の中にいる鹿森博士の肩にとまる

博士 ……すべてのことはなるべくしてなつてゆく

♪

博士 はああああああくあああああああ

声 睨んでえ 睨んでえ

博士 はあああああああああああ

声 見あくつてえ

博士 あかね雲おく 金星(きんぼし) 生んでえ

声 日暮れてえ

博士 天駆けるうゝ タツの背に乗つてえ

声 睨み節い

博士 八卦よし、八卦よおい

岩影から鹿森博士と同じ姿の助手たちが何人も出てきて岩を使った天体観測をする景

巨石の配置位置から太陽光を観測し、時間、月日、季節を割り出す学者集団

青銅の鐘が鳴らされる中、シンボルマークのように月と太陽の形が染め抜かれた軍配をふるう博士

湖の中に突然現れる鹿森伊之助。自分がどこにいるのかわからないで立ち尽くしキョロキョロ

そこに恩部と禄が現れて、道に棒などを並べはじめ

恩部 すいませんね、ここらをね、ざっと、あれしますのですね

禄 すぐ終わりますんで

恩部 地鳴りが近づいておられますのですね。禄さん、兆しは感じるかい？

禄 まだ全然だが、急に来るよ

恩部 手遅れになる前に急がないとね

禄 家に入って窓を閉めておいてください

恩部 人によっては目がつぶれますでな。これで必ず竜遇様がいらして・・・

禄 恩部さんアレ（うながすと神室（子））

恩部 おい、何やってる神室！ボヤっとしてんじやないよ！足が止まってるだろ！おめえがやりたいってい

うから、わざわざ手伝わせてやってんじやねえか！

神室（子） ごめんなさい

恩部 ほら目が泳いでるだろ！子供だからって甘えてんじやねえぞ！手が遊んでる！こちとら道楽じゃねえ

んだ、なめんたつて！ガチなんだよ。もうこいつは宿命なんだ。それを、それを・・・

まあまあ。神室もほら、よそ見しないで働け

こんなガキになめられちゃ、わたしや、たまったもんじやないんだよ。頭来るだろ、全く！

その前に地鳴りが来るだろ

可哀想だろ！

ん？

その子が可哀想だろ！通報しますよ！

鹿森 目がつぶれますよ！合図があるまで絶対外を見たり、出歩いたりしてはならんと言ったのが聞こえま

恩部

鹿森

禄

鹿森

禄

恩部

禄

恩部

神室（子）

恩部

禄

恩部

禄

恩部

禄

恩部

禄

恩部

せんでしたか？

鹿森 　どんな事情があるか知らないが、これは明らかに児童虐待です

恩部 　は？

鹿森 　おいで、こっちに、ダッシュでほら！ダッシュ！（神室に）

神室（子） 　誰なんですか？

恩部 　誰なんですか全くだ！

鹿森 　怪しいもんじゃない。ただ、ルールを逸脱した暴力行為に業務上目をつむってられない立場の者です

神室（子） 　・・・え？

恩部 　「え？」だ！「え？」だ！

鹿森 　ほら今だチャンス、ダッシュだ、少女！世界をあるがままに受け入れる強さだけが正義ってわけじゃないんだ。人生には時に逃げる勇気だって必要だ！誰も卑怯だと咎めやしないよ。疑うことなく、おじさんの言葉を信じてごらん。一度外に抜け出してみないと、そこが地獄だとわからない種類の罠でこの世は満ち満ちている！

禄 　ちよつと、おたくさんも血を下げて。逆に子供に怖がられてますよ

鹿森 　おじさんはね、裁く人なんだ。何が正しいのかを差配するプロフェッショナルさ。だから安心だね。

恩部 　安心だよ。どう考えても。よし今だ、ダッシュ！

鹿森 　しねえよ。ダッシュしねえんだよ。むしろこっち側にバックしてるじゃないか

恩部 　残った！残った！そっちに残った？

鹿森 　目をつむって耳を塞げ！地鳴りを踏み固めに空からリュウグウが舞い降りるぞ！

禄 　キーッ

鹿森

あの・・・

恩部

耳がつぶれますぞ、お父さん！

鹿森

はい、お父さんでは・・・

禄

うるせえぞ！こら！

恩部

耳を塞がんとつぶれますぞ！わかつてるのか？必ず目も耳も塞いで。お父さん！わかつとりますか？

恩部

返事は？おい！（しつこくやって）・・・それでよい！

禄

かいらみろすまりむす、にぎらみにまりす、むらたぢりうろすむ、なわぎそぎむらねもしをりの・・・

恩部

キーツ！

恩部

今だ、竜遇様に生きた餌を！

禄

キーツ！

三人で竜遇召喚の儀式

最初は目を閉じながらも一部始終を目撃する鹿森

恩部

ああ（失神したように一回倒れる）・・・はあはあ、終わりです。はあはあ、竜遇様は去られました

鹿森

いやいや、え？何何？何があった？

恩部

ですから、はあはあ、たった今、竜遇様がここへ飛来され、怖ろしい地鳴りを踏み固めてくださった

恩部

のです

鹿森

今？

禄

助かったな。ありがてえな

神室 ありがとうえな

鹿森 え？何言ってるの？

禄 危なかったなあ！地鳴りが直撃してたら、ここいら一体全滅必至だったぜ

神室 危なかったな

恩部 おお、見事に骨だけ残して召し上がられたわ。めでたいめでたい

鹿森 今、それ、すり替えたでしょ？人形でしょ？自分らで作ったんですか？

恩部 おお。これは健康なフンを排出されたようだ

鹿森 何から作ったそれ？強烈なおい・・・

恩部 美しいお羽は、神室、おまえが思い出にいただいておきなさい

神室 はい

恩部 もういくつも集めておるんです、ほら、お見せして

神室 はい。(鹿森に) こんなに色とりどりに並べました。綺麗でしょ？

鹿森 いやいや

神室 こうやると、まるで竜遇様が羽ばたいているみたい！

鹿森 そのおじさんが撒いた奴だね、今ね

恩部 神室、言ってるあれ、今でしょ

神室 (鹿森に) 竜遇様の声は、およそこの世に存在するものとは思えぬ、まるで、永遠の響きでした

鹿森 何言わされてんの？

恩部 どうやらこの子には竜遇様の声が直に聞こえたようですが

鹿森 いや、あなた達が言わせてんでしょ

恩部

さて、あなたはとうだったかな？

鹿森

(思いを言う)

恩部

・・・無垢な子供のまっすぐな言葉を汚い大人の身勝手な価値観で汚さないで！

鹿森

いやいや、ちょっと待って、一体これは何なんですか、この茶番は

恩部

もう目を開けて結構ですぞ、お父さん

鹿森

いや、さっきからとっくに見てましたけど・・・

恩部

目がつぶれましたね！

鹿森

いや潰れてないです

恩部

耳もつぶれましたね！

鹿森

全部聞いてましたから！

禄

きったねえな！あいつ！神室、目が腐るから絶対あいつ見るなよ！

神室

はい！

鹿森

いや、きったねえのはそっちでしょうが！よくはわからないけど、これ、あれだろ？インチキ教団か

禄

何かだろ！

鹿森

何だとしてめえ、もういっぺん言ってみろ！

鹿森

だからさ、その、何？竜遇だか何だか知らないが、それにかこつけて、正直者から金をだまし取る詐欺集団だろ？

恩部

・・・そう思うなら、見なかったこと、聞かなかったことにすればいいじゃない？

鹿森

何だよ、それ？

恩部

それが信じるっちゅうことやろ、ちやうか？

鹿森

いやいや、何言ってるの？ちょっとお嬢ちゃん、やばいよ、こんな人達と一緒にいたら！逃げよう！

恩部

おじさんと一緒に逃げよう！

恩部

おじさんと一緒に行こうと声をかけてきた知らないおじさんは、十中八九、誘拐犯です

鹿森

違う！

禄

神室、おまえが誘拐されても、俺達は貧乏だから身代金なんて払えねえからな。自己責任だぞ！

鹿森

子供に何てことを吹き込んでるんだ、君達！

恩部

さあ、いつまでも油売ってないでもう行くよ！竜遇様を待ってる人は、まだまだ世の中にいる。私達

鹿森

竜媒師の仕事に終わりはないんだからね

鹿森

だから食いつばぐれない、うまみのある仕事だってわけか！

禄

うるせえな！いい加減にしろよ！

鹿森

言ったはずだ！私は裁く人なんだ！何が正しいのかを差配するプロフェッショナル、行司なのだ

恩部

と！だからこんな歪んだ土俵際は断じて看過できない！

恩部

何、土俵？行司？何それ？

神室

相撲！

鹿森

そつ、相撲！

恩部

え？何て？

神室

土俵ってそれ、綱で囲った丸い砂場のことです

恩部

砂場？どのくらいのの？

神室

まあ、これくらいの

鹿森

これくらいだ

恩部

・・・あなた、よく知ってんのね

禄

それっぽっちか

鹿森

まあ、はい、だいたい

禄

たかがそれっぽっちの、てめえの狭い価値観、簡単に他人に押し付けてんじゃねえぞ、おっさん！人それぞれ置かれた環境が違っただよ！正しきなんて人それぞれの都合だ！偉そうに、竜遇ぶってんじやねえぞ！

鹿森

だから何だ、その竜遇って！竜遇も知らんのに、どうやって竜遇ぶるってんだよ！

神室

リュウグウノツカイですよ

鹿森

え？

恩部

え？

神室

この方はもしかすると、リュウグウノツカイですよ

鹿森

それ・・・魚じゃない？

飛び出てくる狛狛

狛狛

成り行きに流されすぎて、どうやらこの行司は肝心なことを見失ってる。それは何で己が突然何千年も離れた世界に飛び込んだのかってことだ。おまえはさっきまで座布団飛び交う国技館、令和元年の俵に囲まれた円形の泉の水面に立って、狂王トランプに捧げる御前相撲を裁くはずだったではないか？すなわちこの俺様への忖度寸劇を・・・

十得

何を言ってるのかさっぱりわからん！

義平 肝心なことを見失って迷走しているのはお前だろうが、狒狒よ

狒狒 悪源太義平か！

義平 今初めて会ったみたいと言っな。我らは半刻も前からずっとこの岩屋にいて、おまえと睨み合っているんだぞ

狒狒 おお。ここだ！ここだよ！都にのさばる、荒々しきもののふどもの時代！俺の本来の居場所だ！いるべきポジションだ！

十得 ポ、ポジションウって何だ！言えねえ！

狒狒 身の丈みたいなものだ。俺はおまえと睨み合っているのが、ベスポジだ

十得 ベスポジ！言えた！

狒狒 ベスポジジョンだ。それくらいわかれ！

十得 わかるか！

狒狒 で、何でそれが俺にはわかるのか？この疑問に俺は慣れた。もう気にしないで呑み込もう。

十得 御曹司、はようこの気色悪きもののけを、その髭切の太刀にて一刀両断に！

狒狒 髭切りとはさて、この狒狒の顔、どこからどこまでを髭とみなすかな？

十得 イラつくわ！

義平 しかし何でこの狒狒は人の言葉をこつても解すのか？その不可思議が解けぬうちは我が剣先がどうにも鈍るのだ

十得 それでは無為に時が経つばかり。飛驒の山猿ふぜいに足止めを食らっている場合ではございませぬ。一刻も早く諸国に散った一門の態勢を整え直し、都の平家に再び相まみえん！

義平 いかにも！それがしは源氏再興の要の・・・不意打ち！（少し力んでつんのめりながら刀を振る）

緒方美和子が現れる

狒狒　ぐえええ！卑怯な！まだ話の途中に！（逃げんとしたところ片足を斬られ、血が噴き出す）

義平　まさか！この義平が躓いて、一刀にて討ち損ねたか！

十得　・・・誰も見てはおりませぬ！わが証言にて後世には風の如く一刀両断ということになります！御曹司、さあ、早く止めの二太刀めをば！

狒狒　ここが髭か！おい、おまえにとつてここが髭なのか！

義平　ではあらためて・・・

緒方　私は見えましたよ

義平　な・・・何？

緒方　あなた、つんのめってしくじりましたよね。偽証はあきらめてください。事實は事實です。格好つけでもダメ。あなたはまず躓いた

十得　何者だ！変な服の女め！

義平　いや十得、もしや、今宵、狒狒への生贄として差し出された村の生娘ではないか

十得　しかし、服が変すぎる・・・

緒方　お黙りなさい！（狒狒の怪我に応急処置を始める）

狒狒　お、おまえはあの時の国技館の・・・

十得　御曹司！こうなれば二匹まとめて！

緒方　二匹？二匹？最低。最低ですね。あなた達、怪我人を看病してる看護師に手を出すつもりですか？人

道的な見地で許せない振舞いです。それでもどこぞの名家の御曹司なの？ジュネーブ条約をご存知？

十得 ジュウネ・・・知るか！

義平 どうやら生贄ではなさそうだな

十得 それに見たところ生娘という感じでもない

緒方 はい、明らかなセクハラです。本気で訴えますよ

十得 わからんけど、むかつきまするなあ！

義平 娘御よ、何を勘違いされてるか知らんが、そいつは人ではない、怖ろしい化け猿だ。毎年村祭りの夜に生娘を要求し、生贄として餌食にするものけだ。俺は村の衆に頼まれて、この狒狒を退治しに来たのだ

緒方 知りません。この方は怪我をしている。だから看病される権利があるんです。そしていかなる事情があれ、戦場のナイチンゲールに対する暴力は許されません

義平 ちよつと待て、俺の何が間違っているというのだ？

緒方 何が間違っていて、何が間違っていないのか？それは私にはわかりません。ましてや正直に言っと、ここがどこなのか、どうして今ここにいるのかさえ皆目見当がつかないんですから。それを決めるのは私の役目ではありません。でも私には私の役割というものがあるんです

狒狒 ・・・・この娘は何なんだ？役割？果たして本当に人は、そんな一言だけで、この不測の事態が割り切れるのだろうか？とは言いつつ、今の俺はこの闇雲な使命感に頼り切るしかない。看護師とはそういうものだ。どんな疑問も割り切って、すべてを委ね、身をまかせるが上策。そう考えると、今のこの混乱状態そのものも、まるで病室に担ぎ込まれたようなものか。俺には俺の身に起こっていることが皆目分からない。だからメディカルスタッフにすべてを委ね、黙って身を任せるしかない。メディカ

ルスタッフ、言ってみそ？

などと独りごちてる狒狒の正体は、実は飛驒山奥の伝説の化け猿ふぜいではない

父さん！

あの臭い口から洩れる息、聞き慣れた言い草の数々に、沸騰止まらぬ赤ら顔・・・その姿はまごころとなき大和の狂王、和仁の猫熊！

血を下げるんだ、父さん。この時すでに和仁の猫熊は千年も前に死んでいる。あれは、乱世の入り口で、もののふ達の名を天下に押し上げた時代の生贄。やがてあの悪源太源義平に退治されるが運命の哀れな狒狒だ

いや、あれは奴だ。間違いない、和仁の猫熊！

そんなわけない

やはりあれは死なん。結局あれは死なんよ。いつまでも、死なんのだよ

そんな風に父さんは、最後の最後まであれに追い詰められていった

だから埴輪を作って見返すんだよ。いつまでも朽ちぬ、おまえの顔で、いつまでも睨み続けておいてやらんといかんのだよ

それは父さんお馴染みの恨み節だった

何せ俺は、狂王の傍にいて、誰よりも、その力による支配を支えた知恵袋だからな

だからこそ父さんは、その罪悪を誰よりも知っていた

いくら面倒臭くたって仕方がない。父さんには、断り切れない役割ってものがあるんだよ、弥富

生前の父さんは、そんなはったりをかましながら、破壊の渦中であって、ただ一人、止まることなき、その狂気の顔面を睨みつけ続けた、知の兵だ

弥富（埴輪）

野見

埴輪

野見

埴輪

野見

埴輪

野見

埴輪

野見

埴輪

野見

埴輪

野見

野見 ……弥富、ここで待ってろ

弥富 どこへ行くの？

野見 王がお呼びだ

弥富 行っちゃダメだ。逃げた方がいい

野見 だが弥富、父さんに逃げる場所がどこにある？

和仁のクニの陣。真ん中の玉座に王冠をかぶった狒狒がいて、付き添いとして緒方が傍に立っている
楽団が妙な音楽を奏で、黄金姫が舞っている

狒狒 ここは誰？私はどこ？

伊根 猫熊王、これで飛驒の征服は時間の問題でございます。ぐらつく竜遇信仰の隙を衝き、手練手管で民と巫女の間、大きな分断の壁を築かせた黄金姫様お得意の錬金術。まことに鮮やかな手さばきにてあの広大な土地に眠る莫大な鉱物資源を自由に差配できれば、和仁の王国の力は文字通り盤石なものになりましょう、父上

黄金姫

伊根 それを指して、竜遇の化石と申すは、まさに姫様、言いえでぞ、妙！

狒狒 どひよう・・・どひよう！

緒方 ちよつと待って、シヨック症状です、患者は今混乱してます

狒狒 あ、そうだ、足が痛い！

緒方 大丈夫。よくある神経の錯覚だわ。昔の傷痕が今うづく気がするだけ

狒狒 昔の傷痕？

緒方 あるいは、未来の傷痕が

狒狒 未来の傷痕？

伊根 この伊根宿禰が察しまするに、王の体にはすでに、来るべき飛驒制圧の勝利のうずきが先触れの聖痕として現れたのではございますまいか？

黄金姫 だとすれば、これは、此度の戦の勝利をあらかじめ保証するもの。まことに幸先よき出来事ではないか、のう、野見宿禰？先ほどからムスツとした顔で黙り腐っておるが、さて、今日はまた、虫の居所でも悪いのか？

野見 ……そう簡単に事が運ぶとも思えませぬ。あまり無理を押し通して戦となれば、必ず双方に多数の死者が出る。それは下策でございます

緒方 あ、負傷者の収容でしたら敵味方問わず、私の方でできる限り万全を期すつもりです
それは助かる

伊根 いや、そういう問題ではないのです、えっと、誰でしたっけ？

野見 緒方さんだよ。皆覚えて

狒狒 看護師の緒方美和子です。よろしく申し上げます

緒方 よろしく申し上げます

黄金姫 お召し物が変ですわね

緒方 人間は中身だと思っておりますから

狒狒 まあまあ

野見 恐れながら、和仁の猫熊王よ…飛驒は山深き秘境の大国。力押しを通しては、恨みを残したまま、手に負えぬ巨大な荒地を抱え込むだけのことです。地元の民の協力なくしては、開発の段になって

頓挫するのは目に見えてはおりますまいか？

あ、耳が痛い！

大丈夫ですか？（治療態勢）

野見宿禰殿が弱気の虫を流し込むから

どうも昨今のノミノスクネはいちいちつかかりよるのすくね

いやしかし・・・

でも耳が痛い反対意見の人がいるのは政治にとって健全なことですよ

そっだよ。それは俺もそう思うよ

王よ、どうか我が言葉に耳をお傾けください

はい

もしやケツの毛でも抜かれましたか父上、その妖婦に

妖婦、どちらかというそれ、そちらにお似合いのキャッチフレーズでは？

まあまあ・・・何か合わないね、二人ね

弱気強気の問題ではございません、何を持って我らの勝利となすか、それ・・・

あーすごい、こんなにでっかい虫がとれた！

カナブン？

カナブンですね

王よ、それこそが・・・

ああーよく聞こえる。嘘みたいに世界が音に満ちている。うるさいくらいに・・・

もしや今までそのせいで人の話を・・・

狒狒

緒方

伊根

黄金姫

野見

緒方

狒狒

野見

狒狒

黄金姫

緒方

狒狒

野見

緒方

狒狒

緒方

野見

狒狒

野見

狒狒 うるさい！

黄金姫 ……父上

狒狒 うるさい！

黄金姫 ……

野見 それこそが……

伊根 黙っておれ、野見宿禰！

狒狒 おまえが黙っておれ！

伊根 ははっ！

狒狒 それもうるさい！

伊根 ははっ！

狒狒 ……思い出した、いや、思いついた、この感じ……うん、この全能感。すべてが思惑通りに進んで

いく。当然だ。自然だ。何せ俺は最後の勝利者。森羅万象を司る万能の神なのだから

緒方 ……大丈夫ですか？

狒狒 大丈夫です

野見 ……万能の神などこの世にはおりませぬぞ

伊根 これ、野見宿禰殿！

狒狒 でも俺は最後に勝った生き残りなのだ。あの竜遇どもにすら最終的に勝ったのだ

野見 何をおっしゃってるのか、一同わかりかねますが

黄金姫 これ、野見宿禰！

野見 世の中は勝ち負けにて分断できるものではありません。だとすれば、その場において、力とはいかな

る意味を持ちましようや？

うおおー

王はお疲れだ。軍議はここまでとしよう

何も結論が出ておらぬではないか！

結論は出ている

あの滝で鳥はすでに鳴いたのじゃ！

すでに宣戦布告はなされている

王の結論がまだ出ておらぬ

キーっ！

・・・野見宿禰

ははっ

普段は言葉に出さぬが、我が片腕たるそなたの諫言に和仁猫熊はいつも感謝しておる。おぬしの掲げる深き知は、この王の力の暴走を止め、一方で、この王の心をかように捻じらせてもくれるのだ。野

見宿禰、おまえという男がそこまで言うからこそ、逆にその言葉には絶対乗っかるものか

そんな無茶苦茶な

何か変な意地があるんですよね、何かなこれ？

更年期障害かも？ともかく向こう行って少し血をさげましよう

はい

お待ちください！

すでに王の結論なら出ている。貴殿は何故ここに召されたと思っている？

狒狒

伊根

野見

伊根

黄金姫

伊根

野見

黄金姫

狒狒

野見

狒狒

野見

狒狒

緒方

狒狒

狒狒

野見

野見

伊根

黄金姫

この太刀をそなたに預けるよう王より承っています

野見

これは……

伊根

恐れ多きこと。和仁の王家の力を象徴する神剣ぞ

野見

祖師野丸！……空より降った隕石の鉄を鍛えに鍛えたこの世で最強の剣！

狒狒

野見宿禰よ、王家の軍を率い、その先頭に祖師野丸を掲げ、飛驒の山野を切り拓いてまいれ

野見

武人でもなきこの私に、飛驒獲りの軍を差配せよと？

伊根

つまり試されておるのではないか？まことの忠誠を

野見

何と……

狒狒

ああ、あと、弥富は残していくようにな

野見

弥富を！

狒狒

……心配するな。何も人質というわけではない

拘束される弥富の姿が見える

狒狒

ああ、暑い暑い

緒方

熱があるかもしれない

狒々

いや、そういう問題ではない

野見は仕方なく出征していく

狒狒と緒方は別室へ消える

埴輪

その男、狂王と呼ばれた和仁の猫熊は、最終的には竜遇に呑み込まれて死んだという。だが考えてみると竜遇には死というものがない。時の泉の底を自由自在に行き来することで、あらゆる時間に、あの長い首を突っ込むことができる竜遇と共に、狂王の靈魂は、その後、永遠に区切られない時間をさまよい続ける業を負うことになっていくのだ…

岩屋の中、脇腹に矢が刺さった盤情がヨロヨロと神室の前に現れる

盤情

・・・どすこい（座り込む）

神室

盤情さん！

盤情

いや、全然大丈夫です。神室様、すまんがちょっと水を汲んでくださらぬか

神室

（水をくみながら）何が起こったのです？

盤情

（飲みながら）何も。何も大したことは起こっておらぬ（矢を抜く）うぐっ！

神室

血を止めぬと・・・

盤情

いや大丈夫だ。大した事はない。ほんのかすり傷。そう騒ぎ立てるほどのことではござらん

神室

誰か、誰か血止めの膏薬を！

盤情

騒ぎ立てるほどではない、どうか、神室様、どうか！

神室

しかしそのままでは

盤情

どうか、そっと。しばしの時が経てば、傷もふさがる。この程度どうってことはない

當麻が入って来る

當麻

物陰から顔なき者に狙われたのだ。狩人もめ！本気で矢を放つとは！話し合いは未だ続いているというのに！

盤情

血を下げよ、當麻。大した傷ではない。こんなことで騒いで破談にはならん

當麻

これは計算づくの脅しではないのか

盤情

そんなわけではない。奴らの大半は聞く耳を持って話し合いに応じている。いきがった一部の若衆の暴走だろう

神室

まさかそんなことにまで事が至っているとは

當麻

奴らは矛を収める条件として巫女である姉上の追放を要求している。竜遇の声と偽り、長年、民を欺く言葉を発し続けてきたという理由だ

盤情

そんな条件は断じて飲めるものか

神室

・・・しかしその言葉は当を得ている

當麻

姉上！

神室

確かに私にはもう、かつての幼き頃のように、竜遇の声を聞くことができないのですから

當麻

誰にもそんな声は聞こえない。聞こえるはずがない。そもそも竜遇などこの世に存在せぬのだから

盤情

それはまた別の話だ。血を下げよ

當麻

姉上に代わる本物の巫女を立てるだなどと、聞こえるはずのない声を聞く女が、一体他にどこにいるというんだ？

盤情

あの見慣れぬ鏃といい、きな臭い。何かよからぬたくらみだが、この飛驒の大地にて水面下で画策され

ているのではないか。そんな陰謀にむざむざと・・・

神室　：何も見えなかった。何も聞こえなかった。もう私には何も守ることができない

當麻　姉上

神室　女の私には抗う力もないのだし・・・

東湖、坂奥ら狩人達が入ってきて歌いながら入って来て當麻盤情と睨み合い

♪

狩人　はああああああくあああああああく

睨んでえ　睨んでえ

はあああああああああああく

見あくつてえ

突然神室が走り出し、矢を喉に突き立てる

盤情　神室様、早まるな！

當麻　姉上何をする！

神室　・・・ならばせめて、時の泉に、この身を捧げん・・・

神室は自害して果て、辺りは血の海に

盤情 …… 神室様！何ということを！

當麻 …… もう、我慢ならぬ！

盤情 當麻！

當麻は東湖、坂奥ら、狩人の男達を次々と泉の中に豪快に投げ飛ばし、その都度水飛沫が上がる。最後の一人を投げ飛ばそうとした時、見慣れぬ扮装の男、銀田達夫が立っている。

當麻 …… だ、誰だ、おまえは？

銀田 おつ…… (噛んで卒倒して泉に倒れる)

盤情が神室の死体を泉に運ぶ

神室 (声) ああ、いつからだろう？私はいつから竜遇に見捨てられたのだろうか？私はどうして竜遇の声を聞くこ

とができなくなったのだろうか？これじゃあ、話が違つじやないですか…… 恩部さん？

神室の死体が水の底に沈んでいく

埴輪 皮肉にも、その無力な巫女のアマりに非業な死に様が、竜遇の声を失ってバラバラになりつつあった

このクニの傷痕を少しだけ癒したのかもしれない。その日、飛驒の地は悲しみの泉の底に沈み、そこに生きる誰一人として、明日への道のりを見定めることはできなかった……

祖師野丸を抱えた旅装束の野見が當麻の前に現れ対峙するとそこはトランプ来日の国技館へ倒れた銀田に駆け寄る緒方

野見 ……野見宿禰(名乗る)

當麻 ……當麻蹴速(構える)

緒方 身体を動かさないで。危険な状態です

客1 女だ！女が土俵に上ったぞ！

客3 神への冒涇だ！国技への屈辱だ！

埴輪 その二柱の神のぶつかりこそが、一書に伝わる大相撲の起源にて、その後二千年余りの時を経て、今では干上がる、俵で区切った砂地の丸い泉にて、狂王トランプはようやく、その相四つの雄姿を目撃する運びと相成れり

狒狒 どどどど、どひよう！

座布団が飛び交う熱狂

夢から覚めるように過去の岩屋へ。 恩部、 祿、 鹿森、 神室(子) がいる

鹿森 ……あ、あの、ですから、しつこいようですが、繰り返しになるんですがね、詐欺とは言いません

よ。それは撤回します。あくまで投げ銭だっていうんでした。それはもう、信仰の問題ですもんね。

そこはよしとしよう。でもね、じゃあ、あなた達がやってることは、これ何だ？ってことですよ。

禄

だって、実際には竜遇なんてどこにも来てないんですから

は！？

鹿森

いや来てないじゃん。どこにも実際。ね。事実として。それは譲れない。目開けてましたから。私見
てましたから。あなた達がコソコソやってただけじゃないですか？ま、言葉が悪かった。コソコソと
言うか、もぞもぞと言うか、コソコソと色々準備して、恐らく稽古もして、手際よくやってらっしゃ
ったけれども、ね、それで、実際、具体的に竜遇がそこに飛んで来たってことにしてるわけでしょ？
形だけじゃなくて。その痕跡を偽装してるわけですよ、一生けん命。だとするとあなた達がやって
たことは、これ、言ってみれば八百長ですよ。八百長。そこがどうしても私は気に入らないんだ。違
いますか？違いますか、恩部さん？

恩部

・・・八百長ではない・・・演劇だ

鹿森

いやいや、言い方の問題です

恩部

・・・かなり手の込んだ演劇でした。たった三人でやりました。いや、私は覚えられない台詞を手に
書いてこっそり読んでたのでここに数えられる資格はない。これは彼らが実質二人だけでやり遂げた
演劇でした。うち一人は幼い子供でした。私達は・・・やり遂げました

禄

おお

鹿森

いやいや、あなた達のやり遂げた充実具合はともかくね、問題は倫理的なことだね、詐欺じゃないに
しても、人騙してることには変わりないわけだから

恩部

(しゃくりあげて泣き出し、禄や神室が背をさする)

鹿森

いやいやいや・・・

禄

・・・だったら、あれですか？演劇っていうのは、人を騙すためのアレだってあんた言うんですか？

鹿森

いやいや、演劇の話はちょっと置いてだね

禄

演劇だったら客だって共犯関係なんじゃないんですか？

鹿森

だから演劇は今関係なくて……

禄

つまり竜媒師を必要とした奴らはみんな、八百長の関係者で、連帯責任だ。だったらこの飛驒のクニ全体が、アレですね、行司さんにバツサリ裁かれなさいいけないですね！

恩部

禄さん、もういいんだよ

禄

恩部さん

神室

帰ってください！

鹿森

え……

恩部

神室！何てこと言うんだ！この人は竜遇様の遣いなんだから！（嘘折檻）

鹿森

ああ、もう、もう！やめてあげてください！やめて！

恩部

はあはあ……すいませんね、一体何のせいだか、つい、気が立ってしまって。お恥ずかしいところをお見せしました

鹿森

あの、私の知る限り、リュウグウノツカイというのはたぶん魚だと……

恩部

さあ、こんなところですがゆっくりとお寛ぎください、何もお構いできませんが

鹿森

……え？ここに住んでるんですか？

恩部

住んでるっていうか、まあ、たむろってだべってます

鹿森

野宿か

恩部

雨が降らなきやいいんですけど

禄

雨なんてぶつちやけ防げますからね。竜遇様のご加護で

恩部　これ、禄さん！・・・何ボサツと座ってんだよ神室、とっとと水浴びの用意しねえか！（とか）

鹿森　いや、お構いなく

恩部　構うなってよ。いいんだよ。リュウグウノツカイ様が構うなっていうんだから。また目が泳いでるよ。気持ちにもっと融通つけな

神室（子）　はい、師匠

恩部　よっし、食べな（木の実を神室に投げる）

鹿森　いや、犬じゃないんだから

恩部　虐待じゃありませんよ。うちはこうして弟子育てますから。うちのやり方ですから

禄　俺には全然そっうい感じないけどね

恩部　今日は本当おしゃべりだね、禄さん

禄　俺は男だからあくまで恩部さんの助手だ。神室とは違う

神室（子）　私はこれで、不満はないです。押しかけたのはこっちですから

恩部　よっし（実を投げる）

禄　女しか無理なんすよ。聞こえないんす、男には。竜遇様の声を直に聞いて、語りかけることができる

のは女だけみたいだから

恩部　まあ女だからと言って、誰にでも簡単にできることではないんですけどね・・・この子には、何と言

いますか、素質があるみたいでね

鹿森　演劇の？いやこれは失礼

神室　そんなの全然ないですよ。かいかぶらないでください、師匠

恩部　だったら何で、この人が竜遇様のお遣いだと思っただんだ？

神室 それは・・・

鹿森 それは僕も聞きたい。おじさんの知識ではリュウグウノツカイはこういう感じのバットみたいな細長い魚だったと・・・

禄 黙って聞いてもらえませんか？みんな、待ってるんで、答え

鹿森 あいつの不機嫌は治らないなあ

神室 生まれてくる前にね

鹿森 え？

神室 私、違うところにいたような気がするんです

恩部 違う所ってどこ？

神室 どこ・・・どこ

恩部 は？

神室 ここです。確かにここなんですけど、違うところ

禄 ・・・・まいったなあ。こりや何言ってるのかさっぱりわかんねえぞ

恩部 禄さん、先を聞こうよ。それで？

神室 それで、生まれる時にね。なんか、竜遇様の背中に乗って、知らない間にここへ連れてきてもらった夢を見た気がする

恩部 おお！おまえ、竜遇様の背中に乗ったのか！

禄 恩部さん、こりや子供の夢の話だよ。しかもその夢を見たって気がするだけだ

鹿森 いや、その感じ、もっと聞かせて！それで？それで？

神室 それで、私は勝手に、自分が竜遇様のお遣いだと思っていました。本当に勝手に。まあ、ガキの遣い

ですけど。でも、いずれ大きくなれば、竜遇様がきつと、私が何のためのお遣いなのかを、ちゃんと聞かせてくれるはずだって、勝手に決めつけて

鹿森　そこへ僕が現れて・・・

神室　何か様子がおかしくて、直感的にですけど、もしかしたら、私と同じ感じの人なのかなって

鹿森　タイムスリップだ！

恩部　は？鯛むすび？何だそれ？うめえのかい？

鹿森　相撲のことも知っていたよね。つまり君は僕と同じ所からやってきた。そしてたどり着いたこの場所は、きつと僕らがいた時代とは離れた過去の時代なんだ

禄　・・・おいおい・・・こりやまいったぞお。さっぱりわかんねえ

鹿森　で、君は、その後、竜遇の声を聞いたのか？

神室　うーん・・・

恩部　どうなの？最近どうだったの？あんた聞こえてたの？

神室　・・・よくわからないんです。前には一度聞こえたような気がしたんだけど

恩部　これだよーそればかりだおめえは！（折檻しかけて）

鹿森　・・・神室ちゃん

神室　はい

鹿森　もし、今度、竜遇様の声が聞こえたら、聞いておいてもらえないかね？もし私がリュウグウノツカイなのだとしたら、これ、一体何の為の遣いなのかって？私、今、何でここにいるのかって？

神室　はい。それは私もぜひ聞きたいところなんで、聞いたときます

恩部　そう簡単に聞けねえんだろ？

鹿森 私、何をすれば、元の場所に戻れるんでしょうかって・・・

禄 元の場所ってどこなんだよ？

鹿森 夏場所ですよー令和元年の夏場所！アメリカ大統領トランプの観覧大相撲。私が今いるべき場所は、

あの日の国技館の土俵の上だった！（軍配を出す）

禄 ややー恩部さん、あの印！

恩部 あの日輪に三日月は！

鹿森 竜遇様、教えてくださいー私の狂った頭が元に戻る方法を！あるいは、この迷宮の悪夢から、この鹿

森伊之助が目覚める合言葉を！

恩部 鹿森伊之助！

禄 恩部さん！

やっぱりあんた、細長い魚じゃない、正真正銘の竜遇の遣いだ！

え？

え？

よっく聞きな！

今回に限ってー自も耳も絶対に閉じるんじゃねえぞ！

鹿森神室

はい！

恩部 そもそもだ、昔は何人もいた竜媒師の一派が、全部が全部、最初から演劇をやってたわけじゃない。

徐々に竜遇の声が聞こえる者が減り、ついに誰一人としてその存在を確認することができなくなっちゃって、それでも、みんなどうにかして生きていけなくちゃだね。だがそのほとんどが八百長だって声に負けて、家業を畳んでひっそりと遠くの土地へ逃げるように散ってった・・・だがちょうど同じ

頃にね、この岩屋には、その三日月と日輪の印をかかげて膝突き合わせ、何とか人間の知恵で真実を見極めようと、がっぷり四つで、竜遇なき世界に挑んだ、立派な先生達がいた。その先生たちを率いていた博士が、あんたと同じ名前の、鹿森伊之助と言った！

鹿森

鹿森伊之助・・・

岩影から鹿森博士と、同じ姿をした助手たちが何人も出てきて岩を使った天体観測をする景

巨石の配置位置から太陽光を観測し、時間、月日、季節を割り出す学者集団

青銅の鐘が鳴らされる中、月と太陽の形が染め抜かれた軍配を博士がふる

恩部

当時まだ若かった私はちよつど反抗期ってやつでね。そろそろおまえも一人前だからって親からいくら竜遇様の知識を叩きこまれても、実際見たことも聞いたこともないものだ、もうちよつと幼子なら好奇心で納得するんだろつが、まさにそんな大人のイカさまが嫌でしょうがない年頃さ

鹿森

サンタクロースみたいだね

恩部

知らんけど、いらんチャチャだね

禄・神室

うん

恩部

まあいい。ある日、何もかも嘘に思えて嫌になった私は家出して、向かった先があつた岩屋だ。怪しい風体の人間が入り込んでいる、昔から子供が近づくことは親に禁止されてた。一体そこで誰が何をやっているのか、実は気になっていてね。竜遇に関する何かがあることはうすうすわかってた。滅多に人は近づかない場所だが、当時の私には勇氣と期待があつたのさ。そこへ行けば何かが変わるかもしれないってね

博士 何も変わらないよ、君。世界はひとつも変わらない。我々はそれをここで実証してるようなものだ

博士が話す相手はかつての恩部、恩部天志

脇見 子供にそんな言い方をしては難しいですよ、鹿森博士

天志 難しくありません。子供じゃありませんから

博士 ほら、脇見君、君のような考え方こそ、事をややこしくするのだ。噛んで含める世界などどこにあるうか。彼女はこの世界の謎の複雑さに関しては十分に理解している

沢密 竜遇使いの娘のようです

博士 おお、道理で。世界の謎に最も近くで触れあう種族じゃないか

天志 あなた達は、ここで毎日何をしてるんですか？

博士 色々やってるよ。呼吸をしたり、食事をしたり、歩いたり、眠ったり

市旗 またそんな意地悪な

博士 少しも意地悪なもんか。ねえ、君ならどうだ？君は毎日どこで何をしてる？

天志 いや、これはこちらの質問が悪かったです

博士 わかればよろしい

布津間 悪いね、癖が強いんだ、あの人は

博士 布津間君、そりゃ、わざと聞こえるように言ったこの鹿森への批判ですか？

天志 竜遇なき世界の謎を・・・

博士 ……いいよいいよ、続けなさい

脇見 長くなりそうだな

博士 嫌な言い方しないで、脇見君、嫌われるよ、私に

天志 …… 私達の一族は、もう誰も竜遇を見たことがない。その声を聞いたことがない

沢密 そんなこと、君の立場の人が宣言しちゃって大丈夫？

博士 沢密君、最後まで聞こうよ

天志 ……世界のすべては竜遇がつかさどり、あらゆる森羅万象を自在に操る。だからこそ人間にとって、この世を生きていく上で竜遇使いがどうしても必要だった。竜遇の声を聞き届け、我らの声を竜遇に届けるために

市旗 でもその竜遇との対話が途絶えてしまった今、我々は何を指針に自らの運命を知るのか

博士 市旗君、早いよ、先取りだ。最後まで言わせてあげて頂戴

天志 いえ、だいたい、それで同じです

博士 ほら、最後のいいところ、あんた、とっちゃったんだよ、可哀想に。あれ？で、質問は何だったっけ？

天志 まだ質問に至っておりません

博士 だってさ

天志 あなた達は、ここで毎日何をしてるんですか？

博士 だから呼吸とか食事とか、あれ？戻ったね

天志 竜遇なき世界の謎を、その答えを探す人達がいると噂に聞きました

博士 一周したね

脇見 しましたね

天志 大人達は気持ち悪がってあなた達を避けるけれど、それは、きっと答えを知るのが怖いからです

博士 かように、何であれ、回るということだね

沢密 そうですね

天志 そもそも竜遇がないということを認めるのが怖いからです。

博士 あなた、聞いてた？

天志 でもそこを乗り越えていかないと、この状態は変わらないと私は思うんです

博士 大事な所だったよ

天志 はい？

布津間 何であれ、回るんだ。我々が研究を重ねているのは、そういうことなんだよ

博士 あとね、竜遇はそもそもないんじゃない。いたんだ、かつては。竜の時代というものがあつたんだ

よ、この星には

星？

博士 そつ。星―あの日輪も星。欠け行く月も星。夜空を埋め尽くすのも星。我々が立つこの大地も、つまり星だ。こつちへおいで。その岩に背中をつけて座って、あつちの岩の尖つた先端を見てみなさい。

何が見える？

何も

恩部 って言ったまま、しばらく何も見えなかったんだが、そのまま何も言われないもんで、仕方なくじつとしてたんだ。するとやがて日が暮れて辺りが薄暗くなっていくとね、幾つかの星が見えてきた

星だ！

博士 黙って、なおもそのまま、そのままね

恩部 って言われたまま、引き続き眺めていると、ややー間違いない、少しずつ星が動いている。ところが岩

の先端にかかる一つの星だけはどれだけたつても動かない

それが北極星。その周りに柄杓の形が見えるか？

それが北斗七星

あ、はい！

柄杓は北極星を中心に回るんだね

時間を忘れて、私はずっとそこにじっとしていた。どれだけ経ったかわからない：気が付くと辺りは

白み、右側の頬が何だか熱い。振り向くと、山の向こうから真っ赤な太陽が現れつつあった

次はこっちだ。この岩と岩の隙間に体を入れて。そのまま岩の壁面に視線を合わせてまっすぐ見てご

らん。やがて山の稜線と岩影の交わる場所からちょうど太陽が昇って来る

来た！眩しい！

つまり今は昼と夜の長さが同じ頃。秋分の刻であることがわかる

冬や夏たとそこから見た日の出は岩影に隠れて見えないんだ

昼の一番長い日を夏至という。ちょうどここ。この場所に座って、あの岩と岩の間の裂け目から日が

沈むのが観測できれば、それが夏の盛り、太陽の恵みの頂点だ

夜の一番長い日は冬至。太陽の力が一番衰える日。その日の陽光は、この壁面に刻まれたこの溝にピ

タリと差し込む。この上に刻まれた溝は、その日に至る陽光の変化。つまりこれを目盛りとして、冬

至まであとどのくらいの日が経つのがわかる仕組みよ

ほらこっち、この岩窟の中に入ると、わずかな隙間からほら、太陽の光が線となって中の暗闇に差し

込んでくる。ここに光の塊があるだろ

本当だ

天志

布津間

市旗

脇見

沢密

博士

天志

博士

恩部

博士

天志

恩部

博士

布津間

こいつが時間と季節で少しづつ動いていく。動いていく場所に、色んな形の石が並べてあるだろ。節目節目に差し込む光がこの石とピタリと形が一致する。それで我々は時の節目を知ることができる。あ、だからこれは、絶対ずらしちゃダメなやつね

鹿森

つまり時計だ

恩部

知らんけどいらんチャチャだね

鹿森

いや、これはいるチャチャだ！いやチャチャじゃない！

天志

な、何なんですか、これは！

博士

暦だ

恩部

暦！

博士

竜遇なき世界を司るものだよ。春夏秋冬、次は何だ？

天志

春？

博士

そう。そうやって世界は回っていく。春夏秋冬、春夏秋冬、朝昼夜、朝昼夜。それは少しづつ装いを変えながら、ある一定の時間を経てすべからく元に戻って来る。謎の正体は閉じている円なんだ。それは無限に広がる末広がりじゃない。回って元に戻って来る。ならばその間を刻んで、何度も繰り返し観測分析することで、次にまた同じことがやってくる瞬間を、予想することができる。正確に！それが暦というものだ

天志

この岩屋はその、つまり、

恩部

世界の物差しだった！

埴輪

今で言う縄文の太古に、その知恵と知識で、天を測り、世の在り様を操った者達が、この地を治めた平和の時代があったのかもしれない。彼らのひたむきな探求心は、人々が知らぬ間に喪失してしまっ

攻撃的な空気をまとった老婆に先導された集団が侵入してくる。阿方の者達である

博士

た竜遇という信仰の穴を埋め、円を描いて循環する自然のサイクルに応じて、そうすべき時を測って山海で獲物をとる、そうすべき時を測って木の実を拾う。食うべき時に食い、眠るべき時に眠る。生きるべき時を知り、死ぬべき運命を知る。暦を知ることによって世界と一体化した人の暮らしというものがそこにはあったのかもしれない

・・・だが人の知性には必ず限界があり、世界は異に満ちている。我々はそれを決して忘れてはならないんだよ、恩部天志・・・

阿方婆

恩部の天志！今助けてやるからな

天志

あ、阿方のオババか！

博士

どなた？

恩部

かつての竜媒師の一族だ

阿方婆

今もそつさ

阿方女

さあ、今のうちにどこか逃げろ！天志！

天志

いや待て、違うんだ

阿方婆

こいつらのせいだ。竜遇様の声が我らに一切聞こえなくなったのは

阿方全

竜遇様の存在を否定し、星の呪術で人々を惑わした

阿方婆

だから竜遇様が怒って心を閉ざされたんだよ！

博士

・・・またダメだ、どうしたって、ズレが生じる

布津間

そうなんだ。この暦は長い繰り返しの中で、必ず誤差を生じてくる。これが問題なんだ

市旗

つまり、まだ不十分なのよ。私達の計算が違ってたわけじゃない

脇見

観測に問題があるのか

沢密

とにかく僕らはまだ世界を完全には読み切れてない

博士

完全に読み切るなんてことは永遠に不可能だ

脇見

じゃあ我々はずっと間違いを続けるしかないんですか？

天志

呪術なんかじゃないんだ・・・

阿方婆

おまえらが竜遇様が消えた原因だ！

博士

・・・その都度訂正していけばいい。間違いを犯してしまったたびに、その都度ね。ほら、この石を見

て。光の当たる位置が一年ごとに少しづつずれてきてるのがわかるだろ？だったら光が、この石の場所
所にまで到達したように、石の方を少しだけ動かす。インチキするんだ。そしてその年の日数を一日
多く数えてやる

恩部

そのインチキを四年に一回やることで暦は間違いなく進んでいく。それが閏さ。閏年さ。その閏年も
もたなくなってくれば、今度は百二十八年に一回のズルをする。全く鹿森伊之助博士ってのは、ズル
の天才だったよ

阿方全

知るかー！

博士

竜遇が滅びた原因は隕石の落下だよ。恐らくその影響によるこの星全体の気候の急速な寒冷化が原因
だ

阿方婆

呪術の言葉だ、皆、目をつぶって、耳を塞げ

博士

竜遇の存在を否定しただと？冗談じゃない。私らはかつてこの星が幾千幾万の竜遇がひしめく星だっ

たことを知っている。知の研鑽によりその記憶を受け継いでいるんだ。大昔、ちっぽけな人間の力だけで、この巨石どもをどうやってこんな山奥まで運び、正確に並べたりできたと思うね？これは人が線引きし、竜遇が運んだ。ある時期、人と竜遇は共に手を携えて生きていたのさ。我らは竜遇を最も知る一族の末裔だ。竜遇と共に、この地に生き、その滅亡を見届けた、最古の人類の末裔さ

阿方

・・・言うべきことは全部言ったか？

阿方の一族が博士達を虐殺し、岩屋は血の修羅場に

博士

恩部天志よ、逃げろー今からこの地には、雷神の天罰が下るだろう！（殺される）

稲光、雷の轟音

阿方の者達は雷によって打たれて全員が死ぬ

呆然と見ている、恩部、禄、鹿森伊之助、神室（子）

恩部

こうして、あの時、そこにいた私以外の人間はみんな死んじまったのさ。私だけが助かったのは、何

だろうね、竜遇様がお助けくださったのさ

禄

・・・そんでもって俺は、その時死んだ阿方の一族が村に残してったみなしごだ

鹿森

そうだったのか？

恩部

・・・当時、鹿森博士はこんなことを言ってたよ。曆を作り、世界の正しき摂理を測る作業は、絶え間なくずっと継続していかないとけないってね。この先いつまでもズレを修正し続ける、そんな役

割がいつの時代も必要だってね

鹿森 それがつまり、「鹿森伊之助」という役割……

恩部 リュウグウノツカイよ。あなた様がここへやってきたのは必然なのかもしれませんな。なあ禄さん

禄 まさかこんな妙ちくりんなおっさんに「鹿森伊之助」が受け継がれているとはな

鹿森 いやでもこれは代々行司が受け継ぐ名跡で……

神室 あの……

恩部 どうした……何だよ

神室 ……聞こえた

鹿森 何が？

神室 ……竜遇様の声かもしれない

恩部 何だって！何だって！

鹿森 まさか

禄 おめえ、いい加減なこと言ったら承知しねえぞ

神室 本当に聞こえたの

恩部 何と、神室！竜遇様はその、何と申されたんだ？

神室 うん……よくはわからなかったけど……

恩部 おめえまたそれかよ！

鹿森 ダメだ、ダメだ、どうせいつものあれだよ、気のせいだ

禄 聞きましようよ、で？

神室 何か……しなんぐって

鹿森

しなん？

神室

そう。しなんらって。しなんよらって

鹿森

しなん・・・死なん、ね。死なん、死なないってことか

禄

つまり、この世に生きてるってことだ、だとするとそれ！竜遇がいなくなってるってことだろ！

恩部

まことかえ？それまことかえ？

神室

たぶん・・・

恩部

おおおおおお！おおおおおお！

禄

やべえぞ、恩部さん、これはやべえことだぞ！

恩部

おおおおおお！おおおおおお！

鹿森

本当に聞こえたの？気のせいじゃなくて

神室

もしかしたら

鹿森

もしかしたら？

神室

すいまうんらかもしれない

鹿森

すいまうんらって・・・すもうらじゃない？相撲じゃない？俺関連じゃない？

禄

すまんらじゃないのか？謝っているんじゃないか？竜遇様は！

神室(子)

わからないけど

鹿森

本当に？気のせいじゃなくて？

神室(子)

逆に気のせいって何ですか？

鹿森

気のせいって・・・えっと・・・そういう妖精みたいなのがいて・・・

禄

うるせえよ、お遣いのおっさん、そんなこと言ってる場合じゃねえんだ、これ

鹿森　でも、すまんぐだったら、あれだ、いなくなってすまんぐかもしれないよ

恩部　え？

鹿森　いやだから、やっぱり竜遇がいなくなってる、その、ごめんね、もう消えますっていうさ、そついう
ダイイングメッセージみたいなの？

恩部　・・・竜遇がいなくなるはずがないだろ！

鹿森　いや、でも竜遇なき世界ってさっきさんざん言ってたでしょ
は？

鹿森　は？じゃなくて、竜遇がいなくなった混乱を何とかしようとしたのが、この（軍配を掲げ）、鹿森伊
之助博士だったわけでしょ？

恩部　・・・いるんだ、竜遇はーなあー現に聞こえてんだよ、こいつは、なあ！

神室（子）　たぶんですけど

禄　いるんだよ！

鹿森　でもあなた達がやってたのは演劇なんですよ？

恩部　演劇なんかやるか！あんなの八百長じゃねえか！

鹿森　いや、おかしい。僕はね、この軍配とこの名を受け継ぐものとして言ってるんです。竜遇はいない。

問題はそんな道標なき世界をどうやって生きていくのかだ。そこを正しくジャッジして、方向を示す
ことが僕らの役割なんだ。だからあえて言います。まずは落ち着きましょう。落ち着いて考えてみま
しょう。神室が聞いたのはやはり、すもうくではないのか！

恩部　たかがお遣いふぜいが、竜遇様をその手で裁こうとは、天罰のイカズチがその頭上に落ちるぞ！

鹿森　あのイカズチはぎつと天罰なんかじゃない。初代鹿森博士がその知恵で割り出し予測した、気象現象

だ。いいですか雷というのはですね・・・

禄 恩部さん、住もう！じゃないのか！ここに住もうって

恩部 ここに住もうだ、竜遇様がここへ戻っていらっしやるんじゃないのか？

鹿森 いや、落ち着こう。そうでないと、我々はあの日の惨劇と同じところに向かうだけだ

恩部 神室、竜遇様は今も我らの傍にいて、この世を見守ってくれている。おまえがその声を聞いた最後の女だ。だから神室、おまえが巫女として、竜遇様に繋ぎをつけなさい

神室（子） え？

鹿森 でもこの子はまだちっちゃい子供ですよ！

神室（子） ちっちゃくありません！

恩部 ちっちゃかろうが、おつきかろうが、運命だ。弟子は今日限り、これからは、この岩屋にて竜遇の声を聞き続け、飛驒のクニを導く巫女の王となりなさい。神室様、あなたはその為に生まれてきたのです！

神室（大） が巫女姿で岩屋に現れる姿が見える

神室（成人声） ああ、いつからだろう？私はいつから竜遇に見捨てられたのだろうか？私はどうして竜遇の声を聞くこ

とができなくなったのだろうか？これじゃあ、話が違っじゃないですか・・・恩部さん？

そのまま倒れ、盤情に抱えられて泉に沈められる景

跳ねた水が、竜遇が頭を水面に出し、遺体を呑み込むように見える

それを畔でじっと見つめている。ずぶ濡れの銀田

その泉を挟んで睨み合う野見宿禰と當麻蹴速

當麻がかかろうとする

野見 待った！

當麻 うるさい！待ってられるか！どうしてこの飛驒のクニが、狂った王に無条件で降伏せねばならん道理があるんだ？

野見 そうせぬと戦になる。戦になれば、必ず飛驒は負ける

當麻 我らを侮るなよ

野見 戦える状態ではないだろ？

當麻 何を

野見 民は二つに割れ、頼みの巫女は自害して果てた

當麻 すべて貴様らの仕掛けた謀略だろう

野見 そうだ。だがそもそも火種はあった。我らはその隙を突いただけだ

當麻 手負いの獅子の怖さを知らぬようだな。おまえらの卑劣な侵攻は、我らにこたびの悲劇を乗り越える契機を与え、飛驒は再び結束の力を示すだろう

野見 王家の武力を侮るな。この剣を見る。和仁の王家に代々伝わる祖師野丸だ

當麻 それがどうした？

野見 おまえらの作りうるいかなる盾でも防げぬ隕鉄の剣だ。古代に空から降った星の欠片を鍛えた剣だと言われている。この地上にこれより硬い物体は存在しない。王家の技を侮るな。我らはこの隕鉄をも

って大地に転がる岩石鉱石を砕き、今やすべての武具はそれらを鍛えた鋼を使う。鋼は盾を切り裂き、人の体をも切り裂く。兵の数の差を考えても、素朴な山国には勝ちようがない

何を卑怯な。戦は気合いだ！武器などいらぬ。裸と裸のぶつかり合いで真っ向勝負しろ！

それだそれ。それでは勝てんのだって

やってみなけりや、わかんないだろうが！

他に話の通じる奴はいないのか

正々堂々一対一で勝負しろ！

それだ、それ

何

やむを得ない。その要求を呑もう

え？一対一で決めるというのか？

そつだ。仕方ないよ。おまえがどうしても引き下がらないから

戦の勝敗を決めるんだぞ

ああそつだ。俺とおまえの一発勝負で決めよう

・・・気に入った！おまえのその胆力が気に入った！野見宿禰、男だな。いいだろう。おまえと俺なら負けても悔いはない！

男だとか、今時、はやらないんだ、田舎者が

何か言ったか

それで、おまえが負けなさい

は？

當麻

野見

當麻

野見　それで、負けなさい。そうすりゃ、犠牲は最小限で済む

當麻　まさか・・・八百長をしろというのか

野見　そつだ。もちろんいい勝負には見せてやる。それは俺もギリギリまで頑張つてやる

當麻　待て待て待て、そりゃ話が違つ

野見　おまえの方が強かつたように見えるよう最大限頑張つてやる。だから、最後は負けなさい

當麻　そ、そんな姑息なマネができるか！

野見　そんな姑息なマネをしろ。頼む。當麻蹴速、そうすれば、犠牲はおまえのそのちっぴけな誇りだけで
すむ

當麻　断る

野見　いや、今は言い方が悪かつた。そうすれば、この国を誰一人の命も犠牲にせず豊かにできる

當麻　何！

野見　和仁の王家がなぜここまで強くなつたのかわかるか？それは、武力のおかげではない。民による農耕
の力なのだ

當麻　農耕だと？

野見　この隕鉄の剣は人を斬るための道具にあらず。実は固い大地を切り裂くための道具だ。岩を砕いて大
地を開墾し、作物を植えて育てる。種を蒔き、やがてなつた実が我らの体を育む。種さえ植えれば、
その過程は毎年毎年永遠に円を描くように繰り返されるのだ。これが我が国の豊かさの正体だ。農耕
を礎に据えて後、我らは飢えて滅ぶことがない。豊かさは円を描いて重なっていく。おまえさえ負け
てくれれば、私がこの国を開墾し、永遠の豊かさを生み出す農耕の力を伝えると約束しよう

當麻　いや、山国の起伏激しきでこぼこの土地を、開墾だなどと夢物語だ。我らには我らの生活がある。鹿

や猪を追い、木の実を拾って毎日を暮らす。何が不足か。貧しくとも我らには我らの暮らしの伝統がある

野見 山国でも開墾はできる。ここに大きな湖があるではないか。この水を抜くのだ

當麻 泉の水を抜くだと！ハハ！そんなことができるわけなからう！

野見 我らにはその技がある。水がなくなればここに広大な農地が作れる。この技を蹴裂という。和仁の国はこの技で大きくなった。それこそがおまえが負ける見返りだ。蹴裂の技で必ず飛驒は変わる。いずれ和仁の王家に抗する力を持つに至るだろう

當麻 (絶句)

野見 頼む當麻蹴速、おまえという男を一目見込んで、こちらも相当な覚悟で話しているんだ

當麻 勝手なことを！某弱無人の侵略者に一体何の覚悟があるというか！

野見 力の時代を止める覚悟だ

當麻 何？

野見 それが狂王の知恵袋とも呼ばれ、幾多のクニの滅亡の片棒を担いできたこの野見宿禰が至った結論
罪滅ぼしというわけか

野見 そんな小さな問題じゃない。いいか、これはな、二人して、王の狂気を出し抜く、はったりの賭け、
知恵と力の大戦なのだ

壇輪

切羽詰まった當麻蹴速に決意者詰まる野見宿禰。その二人だけの密談の内容を聞いたものは他に誰もいなかった。いや、ここにいた。サラリーマン銀田達夫。さて、ここへ来てもまだ一言も発しないこの男は何者だったのか・・・當麻蹴速は故郷のクニを思うまっすぐな益荒男だった。だが、まっすぐな當麻は考えに考えた末に父さんの八百長に乗ることに決めた。彼はそういう男だった。最後の最後

で人を信じることができたのだ

銀田

あああ！もう！

埴輪

ところが銀田達夫はそこに輪をかけてまっすぐな男だった。銀田は長い間モヤモヤしていた。そのモヤモヤは爆発寸前だった。だが銀田は自分が何に対してモヤモヤしてるのか、うまく言葉にできない男だった。言葉にしようとする途端に噛んじゃう自分が情けなかった。あの日の国技館で銀田は爆発寸前のまま、千年以上離れた時代へ意味不明のワープをしたが、そのことにすら、ただ大きな目を何度もしばたかせるばかりで、言葉ではうまくリアクションできなかった

盤情

(通りかき) どうかされましたか？

銀田

あっ・・・

盤情

はい？

銀田

あつの・・・あつ・・・あつ

埴輪

気が付くと銀田は泣いていた。初めて自分に語り掛けてくれた人物、盤情に、銀田は今日撃したこと
のあらいざらいを涙ながらに何とか伝えきった

盤情

ありがとう。ありがとう銀田さん。助かった。教えてくれて本当にありがとう。あなたの勇氣ある盗み聞きとチクリに大いなる敬意を表します

埴輪

それから盤情は當麻の元へ急いで向かい、彼に野見宿禰の話に乗っかる迂闊を翻すよう強くいさめた
わかってくれ盤情、何がこの飛驒のためになるのかを俺なりにじっくり考えた末の結論だ

盤情

わからぬ當麻。これは眞に決まってる。和仁の王が、これまでどれだけ姑息な調略を駆使して領土を広げてきたか聞いてるだろ。どうしてそんな連中の言葉を信じられる？結局飛驒は猫熊王に踏み込まれて、ズタズタに切り裂かれるだけだ。その覇道の通り道には草も生えん。そんな野望の片棒を八

百長で担ぐとはどういう見た？

當麻 姉上が死んだ今、飛驒は分断されてバラバラだ。これじゃ、まともに戦うこともできない

盤情 だからあきらめて和仁の風下に立つというのか

當麻 敵は巨大だ。所詮このクニがかなう相手じゃない。ならば、何とかあの男のいう知恵に賭けて、うま

く事態を転がせば……

盤情 おまえが立てばいいじゃないか！

當麻 何言ってる？王は女でなければ務まらぬ

當麻 竜遇の声なき今はそんなことはもう関係ない。むしろかつての巫女の弟として、死んだ神室様の弔い合戦と称すれば離反した連中もついてくる。今や共通の敵は外にいる

當麻 ちよつと待ってくれ盤情、おまえらしくない……

男でなければ務まらぬ、猛き王を名乗ればいいんだよ

盤情 何だと？

盤情 戦の折にはそんな王が必要だ、そうだろ、當麻蹴速

當麻 盤情、戦となれば、この飛驒が滅ぶぞ

盤情 そつなりやなつたで、仕方ないじゃないか

銀田 ……嘘をついてほしくないんです

盤情 え？あ？銀田さん

當麻 誰だ？

盤情 銀田さんだ

當麻 誰だ？

盤情 俺もよく知らん。ただ、この飛驒の敵ではない。そして事情通だ

銀田 嘘が嫌いなんです。ごめんなさい、あの、ずっと見てました。聞いてました。耳で。すみません。あの、蹴速さん、正々堂々と戦ってください。お願いです。わざと負けたり、そんなことしないでください。あなたそういう人じゃない。そうでしょ？見ればわかりますよ。僕はそういうのが・・・大嫌いです！

盤情 銀田さん、まあ、血を下げて

銀田 ガチの戦いを見せてください！お願いします。そういうのが見たいんです。そういうのしかもう、見たくないんです。ある意味、はい。何ちゃって芝居はうんざりだー俺は本物の勝負が見たいんだ！まさか盗み聞きしたんですか？

盤情 そこは結果論ー銀田さんは大事なこと言ってるよ

當麻 いやでも・・・

銀田 嘘はこりごりなんですよ、マジでもう。限界です。そういう人間が全部。そういうのがさばって、威張り散らして、うすら笑ってるのがもう、やばいですよ。蹴速さん、あんたそういう人じゃないでしょ。わかるんだから

當麻 いや、銀田さん、あのね・・・

銀田 だから裏切らないでくださいよー僕の期待をー信じさせてくださいよー人間の美しさをーこんな俺には到底できないことなんですよ。情けない。こんなダメ男には一生できないんだ、マジな勝負なんて。そんなチャンスだって絶対来ない。よくわかっています。でも、あんたは違う人種だよ。あんたまでそんな情けないマネする必要ないんだ。正々堂々巨悪に立ち向かって、それでも勝てる力が十分あるんだよ！

いつのまにか當麻と敵対していた飛驒の狩人達が銀田の言葉に耳傾けて集まってきている

盤情

あ、おまえら……

銀田

おい、蹴速！……その宝、持ち腐れるなって！以上！銀田達夫でした。言いすぎました。死にます！
(泉に飛び込み沈む)

盤情

あ、おい！銀田さん！銀田さん！

口々に當麻に「やりましょう」「戦いましょう」と寄って来る人々

群衆の中から年老いた恩部がこれまた年老いた祿に支えられて現れる

盤情

まさか恩部のオオババ様！まだ生きていたのか！

恩部

で、神室はどこだ？

祿

だから、もう死んだんだよ

恩部

どこに隠れた？

祿

隠れたんじゃない。だから、もう探してもいないんだよ、どこにも

恩部

全く、また仕事をほっぽらかして、どこかで油売ってるんだろうな

祿

へへへ、もうババア、すっかり腑抜けになっちまって話になんねえす

恩部

とんでもねえ、わたしや神様だよ

祿

死んだんだよ、神室は

當麻

自ら命を絶って・・・

盤情

神室・・・畜生！（泣き崩れる）

禄

やれやれ・・・バカが。早まったことしやがってよお・・・

恩部

おおおおお・・・おおおおお・・・

當麻

・・・恩部のオオババ様、當麻蹴速です。神室の弟の、蹴速です。昔赤子の時に、オオババ様にこの

名を頂きました。蹴速です

禄

そんなのもう覚えてねえよ

恩部

覚えてるよ、賢い子だ、おまえは！

禄

いやいや、こりゃ覚えてるフリしてるだけだ

恩部

おい！蹴速！

當麻

はい！

禄

おいババア、芝居もいい加減にしとけよ

恩部

おめえな、この泉の水抜くってことはな、おめえそれ、竜遇様との繋がりを永久に絶つっていうこと

だからな。ここはどこの細道じゃ？ここはどこの細道じゃ？竜遇様の細道じゃ。そつと通してください

んしえ。御用のない者通しやせぬ・・・

當麻

オオババ様。竜遇など、もはやどこにもいないのです

恩部

よく考えて行動しろよ蹴速、でないと絶交だぞ。このババとも。竜遇様ともな・・・（倒れる）

禄

恩部さん！

當麻

オオババ様！オオババ様！

禄

キーッ！

そこにいる飛驒の衆が一つになって長老恩部の死を悲しむ
その様子をずっと物陰から見ていた鹿森

鹿森

あれから私は、この軍配と鹿森伊之助という名をあの人達から受け継ぐものとして、今ここで自分の役割とは何なのか、ずっとずっと考えていました……

銀田

それは俺もです！行司さん！

鹿森

あ、あなたはまさか……

緒方

それは私もです

埴輪

銀田だけではなかった。竜遇が泉の底を潜り抜けた渦に巻き込まれたのは、残り二人を加えて、時を跨いで三者三様。合わせてすべての因果を知るに至ったリュウグウノツカイ三人が、今ここに異次元の膝突き合わす大詰め千秋楽

座布団が飛び交う熱狂の国技館

銀田が卒倒し、緒方が土俵に上り、鹿森がうろたえているシーン

緒方

お願いだからお静かに……お黙りなさい！（ブーイング）

鹿森

お嬢さん、とりあえず、とりあえず一旦土俵からおりてくださいませんか？

緒方

その前に、裁いてください。行司さん。それがあなたの役目でしょ。何が正しくて、何が間違ってるんですか？へい、プレジデント？ドウユーアンダースタンド、ワッツゴーイングオン、トランプ？

狒狒 え？俺？俺？トランプ？え？何言ってるの？

鹿森 残った！

狒狒 (スペードのキングを知らず握りしめていて) え？何これ？何だよこれ？ここは誰？私はどこ？

緒方 ショック症状です！主には安静が必要です

黄金姫 それどころではない。噂がまことであれば

伊根 間違ありません。王家の軍は飛驒の地に今だ一兵も足踏み入れてはおらず、国境にて待機したまま。

一方、飛驒の民はぞくぞくと巫女の祭祀場であった湖畔の岩屋に集結を始めております。明らかかな戦支度とみてよいでしょう、つまり・・・

黄金姫 予想通り、野見宿禰が裏切ったのだな

鹿森 残った！

狒狒 おお、岩屋、その岩屋こそ、千年の後には源氏の御曹司、悪源太義平がこの狒狒を追い込めた・・・

いや、そう見せかけてその場所へ、俺のベスポジへと奴らを引きずり込んだのは俺様の作戦だった。

何せその岩屋からのぞむ竜遇の泉こそはこの狒狒の生命力の源：ハアハア・・・おい、緒方さん、すまんが、あの泉の水を一杯飲ませてくれないか？

緒方 はいはい、泉の水ですね

鹿森 残った残った！

伊根 奴めは飛驒の総大将、當麻宿禰と通じておる模様。国境のわが軍と、飛驒の兵と合わさって、この和仁の本陣にどんでん返しを仕掛けられてはひとたまりもない

黄金姫 そこまで読んでの裏読みの布陣、伊根宿禰は胸がすくね

伊根 元より野見宿禰に従わせたは、捨て駒の弱兵どもにて。和仁の本軍は今頃、越前信濃美濃近江の四方

より飛驒のクニを隙間なく包囲しつつあります

弥富 父さんを罨にはめたな

伊根 裏切ったのはおまえの父だ！

弥富 裏切ったんじゃない。父さんは敵を滅ぼさずに勝つことを考えたんだ。戦わずして相手を呑み込む。

これぞ野見家直伝の喧嘩兵法「同体」なり！

黄金姫 言いたいことはすべて言ったか？

残った！残った！

鹿森 早く泉の水を、また自分が何者なのか不安になってきた！

はいどうぞ

まずい！これ何？絶対泉の水じゃないでしょ？

でも泉なんてどこにあるんですか？

何を言ってる緒方さん、この泉だよ。光満ちた月の如くに真ん丸に光る、この苗遇の泉だよ

でも猫熊王

猫熊王？何それ？動物王国？

これは泉じゃありませんよ

え？

砂で固めた土俵ですよ、大統領

だいと・・・どひょう！どひょう！

決して女が上ってはいけない結界なんですってよ

どひょう！どひょう！

狒狒

緒方

狒狒

緒方

狒狒

緒方

狒狒

緒方

狒狒

緒方

狒狒

緒方

狒狒

鹿森

黄金姫

弥富

伊根

弥富

緒方 あの底に埋もれた、最後の巫女の呪いなんですってよ

狒狒 どひょう！・・・何を飲ませた？

緒方 大丈夫。少しキツイ劇薬だけど、これであなたの精神を苦しめ続ける数々の幻覚は綺麗さっぱり消えるはず。やっと本当のあなたが姿を現すはずよ、我慢して！

狒狒 どひょう！本当にこれは治療なのか？緒方さん、あんたは病んだ俺を治療するつもりか？それとも病んだ世界を治療するつもりか？どひょう！そんで今かよ！悪源太義平！

悪源太義平と十得が狒狒の前で剣を抜き、構える

義平 もののけよ、ここまでだ！（斬りかかる）

狒狒は思わず剣で義平の一刀を受け止める

それは野見宿禰が奉納した祖師野丸である

鹿森 ここに何故だか祖師野丸。これにて万事、極まりました

狒々 どひょう！

鹿森が土俵の真ん中に立って軍配を掲げ高らかに謳う

♪

鹿森 はあああああゝあああああゝ

民 睨んでえ 睨んでえ

鹿森 はあああああああああああ

民 見ああくってえく(待ったなし)

鹿森 八卦よし、八卦よおい

歌の中で土俵入りする當麻蹴速と野見宿禰

鹿森 残ったあ!

太鼓の音と共に取り組みが始まる(スロー気味で)

その太鼓の音に乗せて、中世の岩屋では悪源太、十得と狒狒の戦いが始まる

一方で、和仁の陣では弥富の処刑が始まる

取り組みの行方を鹿森博士や神室、恩部ら死者たちもみつめている

取り組みが極まって

當麻 ああ!

鹿森 残った残った!

野見 ここだ、當麻蹴速、転べ!(投げを打つ)

當麻 (持ちこたえる)

鹿森 残った!残った!

野見 おまえ！なぜ転ばん！

當麻 真剣勝負なんだ！野見宿禰！そうでなければ、何も変えられないんだ！

野見 バカか、今更！

當麻 そう思うなら、俺に勝て！

野見 ……

銀田 勝て！當麻蹴速！

全飛驒 倒せ！當麻蹴速！

野見 この大バカ者が！だったら意地でも勝ってやるよ！お前達のために！

キーツという鳥の鳴き声と共に弥富の首が刎ねられる

野見の体から力が抜ける

當麻が投げ飛ばし、二人同体気味に倒れるが、どうやら當麻が勝っている

軍配の行方を人々が固唾を呑んで見守る

人々 どっちが勝った？！

鹿森 ……あれから私は、この軍配と鹿森伊之助という名をあの人達から受け継ぐものとして、今ここで

自分の役割とは何なのか、ずっとずっと考えていました…行司とは、行方を司るもの。天を知り、

時を知り、人の行方を司る者…（野見宿禰側に軍配を掲げる）…勝者ノミノスクネ！勝者ノミ

ノスクネ！

ブーイング

泉の畔に座布団が舞う

疲れた背中で去り行く野見宿禰

悔しさで泣いている當麻蹴速

銀田

何だよ、これ！八百長じゃねえか！

鹿森が當麻にボコボコにされる

錯乱発作の狒狒は義平を泉の畔の大岩へと追い詰め、祖師野丸で岩こと斬る

十得

義平様！とどめを！

義平

蹴襲！

狒狒

どひよう！

岩が割れて泉の水がひいていき、そこに田園の風景ができていく

飛驒の民は徐々にその一部となっていく

倒れていたままのボロボロの鹿森が立ちあがる

鹿森

・・・その後、和仁のクニの蹴襲の技によって、泉の水底が抜けた飛驒のクニは、水が枯れた跡の広大な湿地を開墾し、稲を育て、野見宿禰の約束通り、平和で豊かなクニとなっていった。が、當麻蹴

速はこの悔しさを終生忘れることはなかった。飛驒を東へ東へと去っていった彼はその悔しさを己の鍛錬にぶつけた。いつか見えない敵を大地に打ち倒す日を夢見て、何者にも負けない強き力を、その身に宿らせるよう励みに励んだ。そんな當麻を終生傍で支えたのが、あの銀田達夫さんだ。銀田さんはまるでトレーナーのように當麻に寄り添い

銀田

(當麻へ指導の一言)

鹿森

その後、當麻の弟子達の育成にも大きく貢献した。結果千年の後に、その薫陶を受けた者の数は膨れ上がり、ついに貴族社会を転覆させる力の時代、源氏と名乗る武家となった。だからあの悪源太義平が死んだフリの狒狒に返り討ちにあった時

狒々

どひよう！

十得

(義平が狒狒に斬られ) 義平様…義平様！

鹿森

銀田さんはさぞかし悔しい思いをしたことだろう

銀田

(義平の遺体を抱きながら) 何だよ、これ！八百長じゃねえか！

鹿森

それからさらに千年ほどが経ったあの日、西暦二〇一九年令和元年の夏場所、国技と呼ばれる西国の土俵上で、錯乱極まったあの狒狒、狂いに狂った和仁の猫熊王が、身も心も昂る愚者どもにあれよあれよと祀り上げられて、世界に君臨するプレジデントの夢を見たあの日……

西国国技館の土俵に上っていく銀田マイクをとって大統領に

銀田

おつ……(噛むと観客がウケる)

銀田はおもむろに拳銃を取り出し、撃とうとする
すかさずSP達^{さん}が反応し、逆にハチの巣状態で撃たれる

鹿森

・・・その日、残念ながら銀田達夫、金星ならず、国技館には一枚の座布団も舞わなかった・・・

銀田

・・・何だよこれ・・・やお・・・（こと切れる）

狒狒

どひようーどひようーどひよう・・・

緒方

ようやく、落ち着いてきたようですね。私わかりますか？

狒狒

・・・もがたさん

緒方

まあ、そうです。よくできました。じゃああなたは誰ですか？

狒狒

私？

緒方

誰なんですか？

狒狒

・・・私ね、あの偉そうなかい竜どもにね、勝ったことがあるんですよ。ええ。大昔。本当に。我慢

大会で。すごく寒い日が続いてね。何日も何日も氷点下が続いた。いや、本当に寒くて死ぬかと思っ
た。実際あいつらは、弱っちい奴からバタバタ死んでいきましたよ。バタバタ倒れて、飛んでる奴は
落っこちてきたし、水の中の奴は凍りついてた。あんなでかい凶体して、寒いのがダメなんだな。いや、
私だって寒かったけどさ、こうやって獣の毛皮をまとってガタガタ震えながら、眠っちゃダメだつて
思って、必死に歌うたってた。何の歌だったかもう忘れただけね。同じフレーズを何度も何度も繰り
返してね、とにかく寝ちゃダメだつて念じてね。そしたらさ、勝ってたんだよ。もうあいつらは見渡

す限り一匹も生きていなかった。全滅さ。嬉しくて体温がクーっと上がった。酒飲んだみたいに。勝ったんだよ、この名前もないダークホースがき。ひっひっひっひ。いやあ、今でも忘れられないんだよ。あの時の感じが。あの、勝ったっていう瞬間の、あの、まるで、神様みたいな気分がさーさまあ
みる！

狒狒は飛来した巨大な竜遇に丸ごとゴクリと呑み込まれる

鹿森

・・・同体。同体にて、この勝負、水入り、水入りい

再び水が満ちて泉が出来上がる

水の中からのそりと一匹の恐竜がでてくる

続いて何匹もの恐竜が陸に、空に溢れる（人が操る人形）

岩影から鹿森博士と助手たちが出てきて岩を使った天体観測をする景

青銅の鐘が鳴らされる

神室（子）が岩影から覗いている

岩屋から巫女である神室（成人）が出てくる

託宣に熱狂する民の姿

そのまま自害し、盤情に抱えられて血の泉に沈められる景

跳ねた水飛沫が、竜遇が頭を水面に出し、遺体を呑み込むように見える

野見宿禰が泉の周りに埴輪（人形）を並べていく。最後には弥富Ⅱ埴輪が立つ

野見

だが、それじゃあ、あまりに辛いんだよ。ひとたび王が死ねば、これからっていう若者だって一緒に死ななきゃいけない。それはどう考えても理不尽だ。それで俺はこう説いた。生きてる人間を埋めると朽ちる肉体と共に、王の記憶は失われてしまう。その代わりに生きてる人間そっくりな人形に、すべての記憶を彫りこんで埋めれば、こいつは何千年も朽ちずに、あなた様の記憶を保存し続けるでしようってな

埴輪

それは父さんお馴染みの恨み節だった

野見

いくら面倒臭くたって仕方がない。父さんには、断り切れない役割ってものがあるんだよ、弥富

埴輪

それが、知恵だ、鹿森君

鹿森

はい

埴輪

それが祈りだ、伊之助君

鹿森

はい

埴輪

僕は全部覚えてるよ。そして忘れない。僕は永遠の存在なんだ。父さんがそっいう風に作った

鹿森

結局、野見宿禰は、娘を死なせてしまった後悔の思いから、死ぬまで逃れられなかった。當麻蹴速は、気高き知恵の力を信じられなかった自らの愚かさを最後に悟って、苦しんで死んだ。清廉なる湖畔の巫女は非業の死を遂げ、あれだけ恐れられた和仁の猫熊の横暴を覚えている者すら今や誰もいない。緒方美和子の救った命は、世界を蝕む病となり、銀田達夫の肉体は粉々に砕け散って、神聖な土俵を血で染めた。すべてはこの世の行方を司る、鹿森伊之助が、この軍配を差し違えた結果ですかね、ご先祖様？豊かな大地と引き換えに、私達が失った、あの竜遇の泉の水は、一体どこへ流れて消えたんだ？

博士

・・・何も変わらないよ、君。世界はひとつも変わらない。もし、何かを差し違えたとしても、その都度訂正していけばいいのだ。その都度ね

恩部

全く鹿森博士はズルの天才だったよ・・・

狒狒 (猫熊王)

その日、狂王和仁の猫熊は精鋭の軍を四つに分けて、越前信濃美濃近江の四方より飛驒のクニを隙間なく包囲した。湖畔の岩屋にこもった飛驒の民は玉碎覚悟の籠城戦。孤軍奮闘の猛将當麻蹴速は自らの命と引き換えにクニの安堵を申し入れる。その意気に震えた和仁の大将は賢人野見宿禰、蹴速の意気やよしとて、剣を投げ捨て、周囲の制止を振り切って、クニの命運を賭けた男と男の一騎打ちを挑んだ！

鹿森

八卦よい！八卦よい！

狒狒

八卦吉相の晴天の下、がっぷり相四つ！

全貞

互角の二神！

狒狒

互いの肩に顎先乗せて、内と外とを睨み節！申し合わせてニタリと笑う、キーツと鳴いたは雲上の鳥、見上げた視線を元に戻せば、驚く速さで身を翻した、背と背を合わせて、

上手の人々

どちらが野見か

下手の人々

どこから當麻か

狒狒

どこから宿禰かどちらが蹴速か、一つ体の怪物鬼神、頭一つに顔一つ、四本腕に刀を掲げ、足に膝裏踵なし。大和王家の先の未来を、睨み見据えた飛驒の豪傑、世にも数奇な、両面宿禰と相成れり！

埴輪

もちろん、父さんお得意のはったりだった

博士

はあああああゝあああああゝ

全

睨んでえ 睨んでえ

博士・恩部・神室 はあああああああああああ

全 見ああくつてえ

鹿森 (土俵に飛び出し) 晴れた空あく 地のツラ踏んでえ

全 ならしてえ

鹿森 駆けのぼるうく タツの背に乗ってえ

全 睨み節い

終わり

初演時配役

鹿森伊之助 (行司)	八嶋智人
緒方美和子 (看護師)	岡田帆乃佳
銀田達夫 (会社員)	元尾裕介
恩部 (オンベ)	藤田記子
禄 (ロク)	渡邊礼
神室 (カムロ幼年期)	附田瑞姫
神室 (成人期)	長谷部洋子
當麻蹴速 (タイマノケハヤ)	若松力
盤情 (バンジョー) ・阿方のババ	亀岡孝洋
東湖 (トウコ)	吉田壮辰
坂奥 (サカオク)	長山知史
鹿森博士	蜂谷眞未
黄金姫 (コガネヒメ)	万里紗
野見宿禰 (ノミノスクネ)	ラサール石井
壇輪	未来
伊根宿禰 (イネノスクネ) ・脇見・同級生2	福久聡吾
狒々 (ヒヒ)	松村武
悪源太義平・沢密	田野倉雄太
十得・布津間	清水芳成
同級生1・恩部天志	柳瀬芽美
和仁舞人	スガ・オロペサ・チヅル
母・市旗	梶野春菜

カムカムミニキーナ 連絡先

ccm@3297.jp

090-6328-1076